



2020年度第3四半期決算

(2020年4月1日～2020年12月31日)

ご説明資料

2021年1月29日

 **山陽特殊製鋼株式会社**

目次

1. 2020FY第3四半期決算

損益の概要

構造ベース利益

業績推移(四半期)

経常利益の変化要因(2019FY 4-12月期→2020FY 4-12月期、2020FY2Q→2020FY3Q)

セグメント別損益

貸借対照表、設備投資・減価償却費の推移、D/Eの推移

2. 業績予想等

2020FY業績予想

経常利益の変化要因(2020FY下期前回予想→2020FY下期今回予想、
2020FY3Q→2020FY4Q予想、2019FY実績→2020FY今回予想)

当社単体業績、Ovako業績、MSSS業績

業績推移(年度)、配当について

3. トピックス

4. 参考資料

新型コロナウイルス感染症への対応、緊急収益改善対策

自動車市場の動向、産業機械・建設機械市場の動向、特殊鋼需要動向

原燃料価格の推移、損益の概要(詳細)

損益の概要

1. 2020FY/4-12月期業績概要

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う需要環境の悪化により、前年同期比で売上数量が減少し、経常損益は2019FY/4-12月期比78億円減の67億円の赤字となった。Ovakoは、コロナ影響と夏季設備休止により3Qの売上数量は低いレベルだが、当社単体については、自動車市場等の回復により、コロナ影響が最大化した2Qを底に3Qの売上数量が回復、3Qの単体経常利益は12億円の黒字を確保(P 5ご参照)。

(参考) 2020FY/4-12月期の売上数量…Ovako、MSSSは2020年1～9月期の売上数量

	2020FY/4-12月期(A)		2019FY/4-12月期(B)		増減 (A) - (B)	
	売上数量(千t)					
売上数量(千t)	967	107.4 /月	1,283	142.6 /月	-316	-35.2 /月
内、当社単体	478	53.1 /月	682	75.8 /月	-204	-22.6 /月
内、Ovako	427	47.4 /月	526	58.4 /月	-99	-11.0 /月
内、MSSS	62	6.9 /月	75	8.4 /月	-13	-1.5 /月

2. 損益計算書 (対2019FY/4-12月期)

(単位:億円、%)

	2020FY/4-12月期(A)		2019FY/4-12月期(B)		対前年同期 (A) - (B)	
	金額	売上高比率	金額	売上高比率	金額	増減率
売上高	1,487	100.0	2,037	100.0	-550	-27.0
営業利益	▲65	-4.4	15	0.7	-80	-
経常利益	▲67	ROS -4.5	11	ROS 0.5	-78	-
内、当社単体	▲5	-	44	-	-50	-
内、Ovako(注1)	▲24	-	▲0	-	-24	-
内、MSSS(注1)	▲11	-	▲10	-	-1	-
内、のれん償却費	▲19	-	▲21	-	+2	-
税後利益(注2)	▲59	-3.9	0	0.0	-59	-
税後利益(構造ベース)(注3)	▲39	-2.6	22	1.1	-61	-

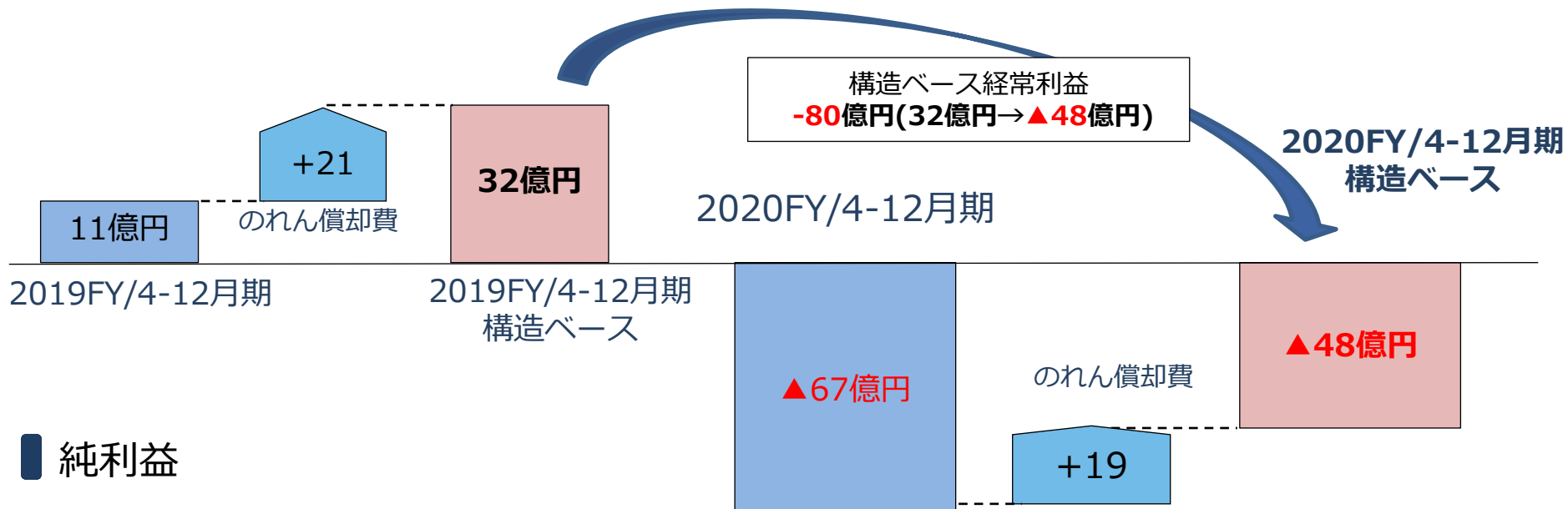
(注1) OvakoおよびMSSSは、2020年1～9月期を連結

(注2) 親会社株主に帰属する四半期純利益

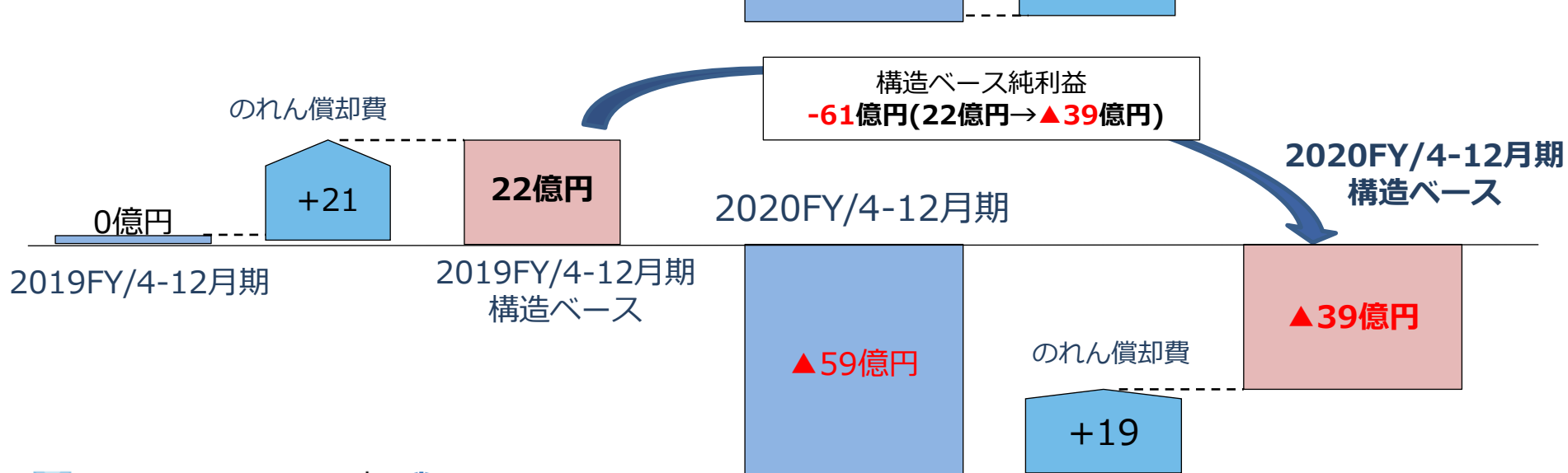
(注3) のれん償却費を調整した利益

構造ベース利益 (2019/4-12月期→2020/4-12月期)

■ 経常利益

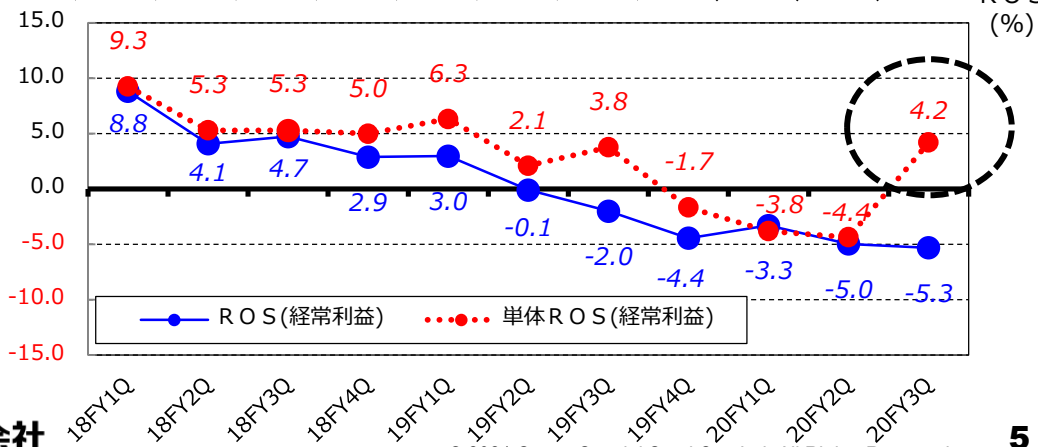
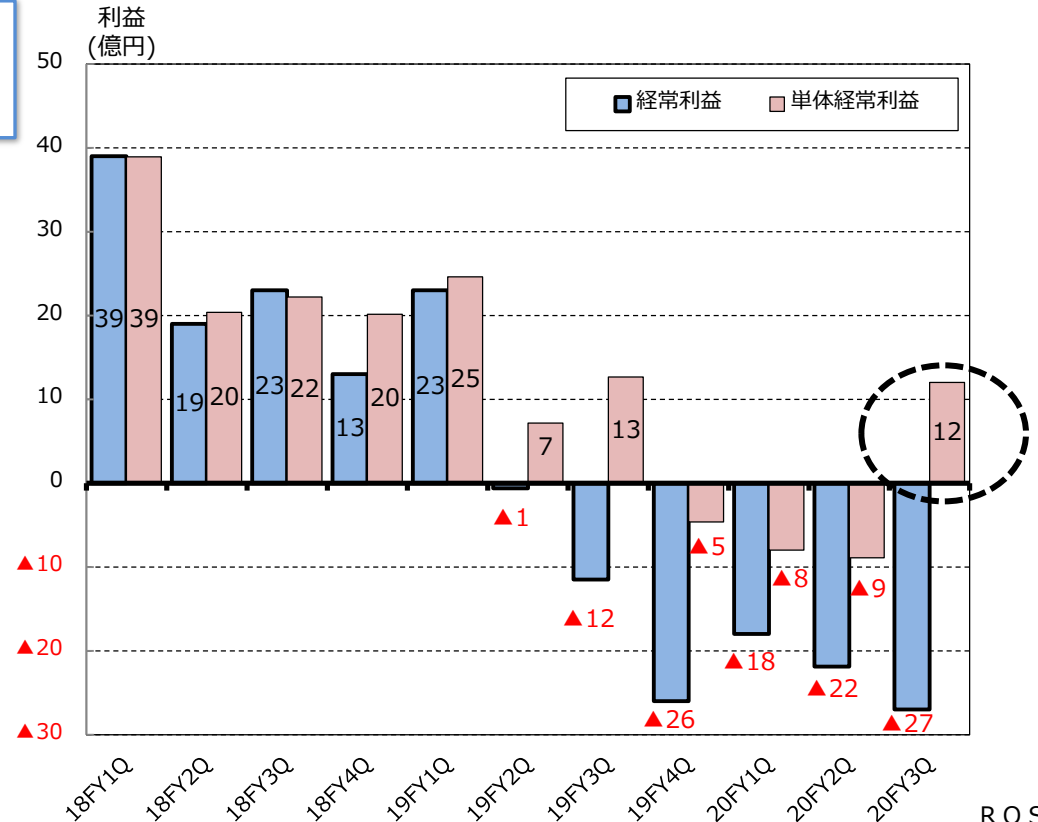
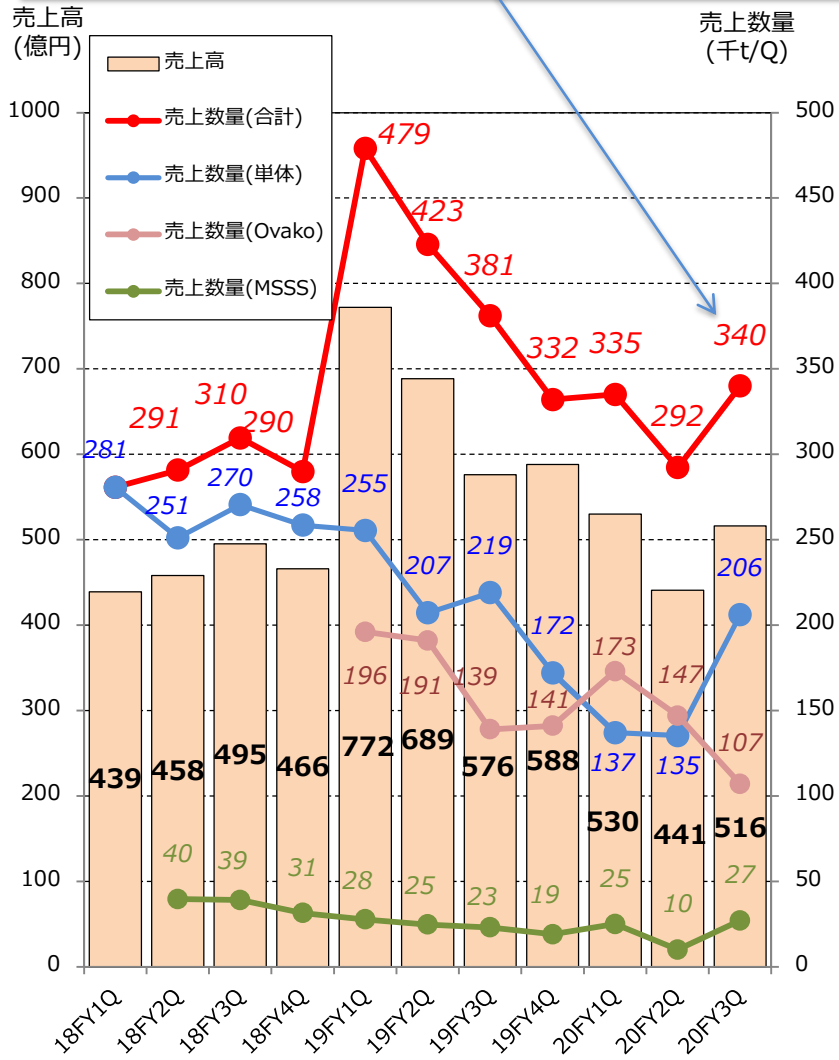


■ 純利益

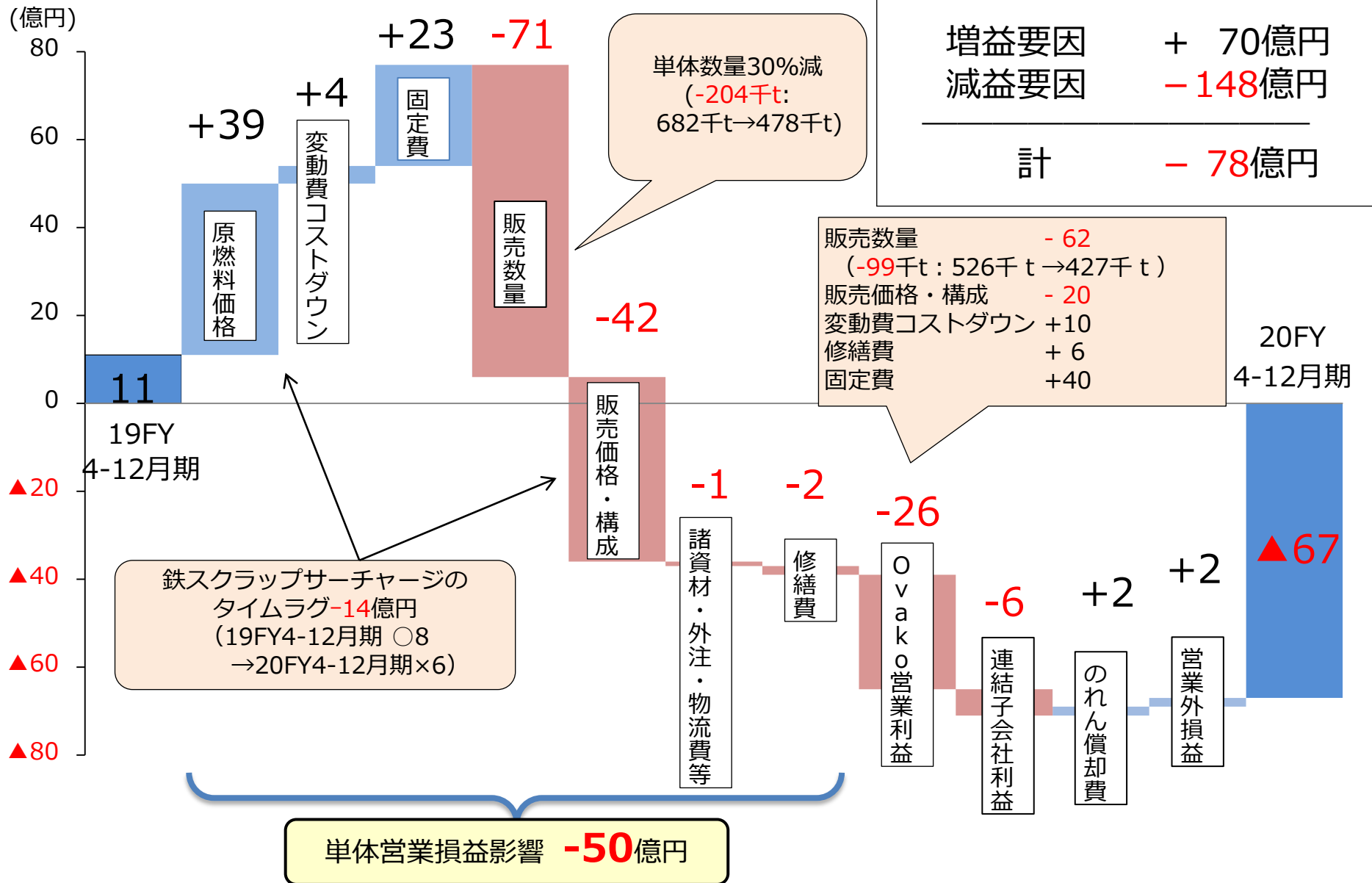


業績推移(四半期)

当社：20FY上期はコロナ影響により数量減少したが、3Qは回復。
 Ovako：20FY3Q(7-9月)は夏季設備休止およびコロナ影響により数量減。
 MSSS：20FY3Q(7-9月)は、2Qより数量回復。

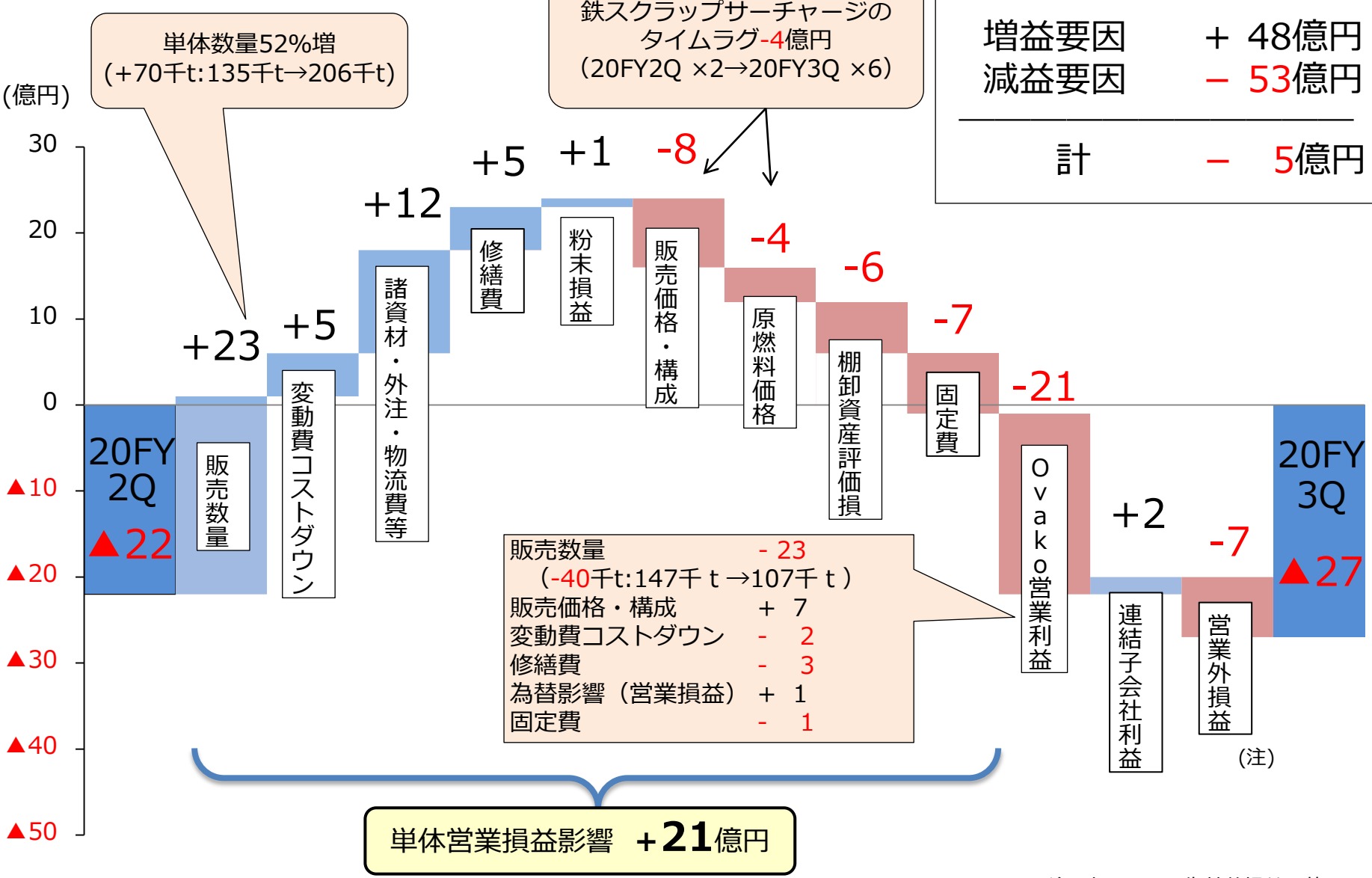


経常利益の変化要因 (2019FY 4-12月期→2020FY 4-12月期)



経常利益の変化要因 (2020FY2Q→2020FY3Q)

増益要因	+ 48億円
減益要因	- 53億円
計	- 5億円



(注) 内、Ovako為替差損益-6億円

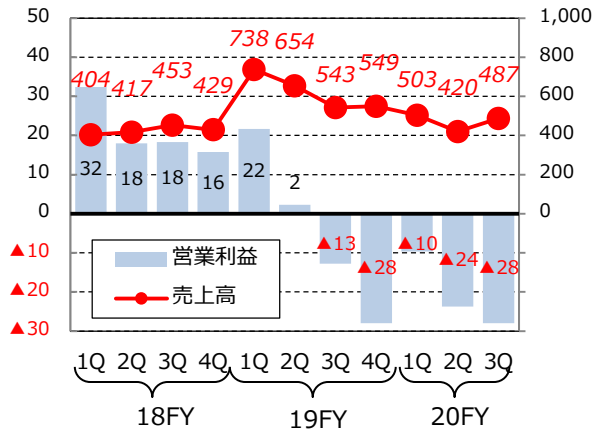
セグメント別損益

(単位：億円、%)

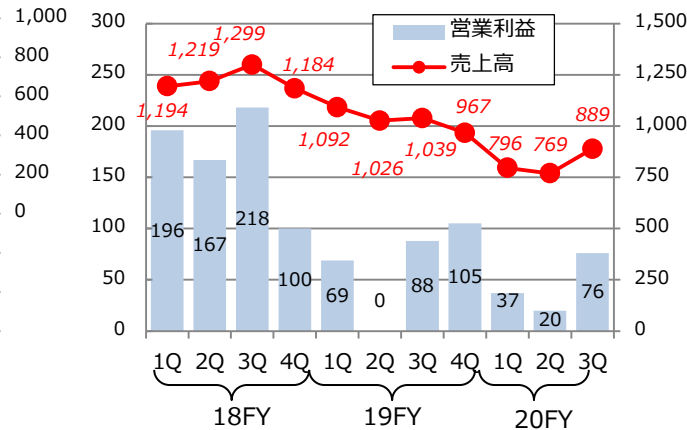
	2020/4-12月期(A)			2019/4-12月期(B)			対前年同期(A)-(B)		
	売上高	営業利益	売上高 営業利益率	売上高	営業利益	売上高 営業利益率	売上高	営業利益	売上高 営業利益率
鋼材	1,411	▲61	-4.4	1,935	11	0.6	-524	-73	-5.0
粉末	25	1	5.5	32	2	5.0	-7	-0	+0.5
素形材	95	▲5	-5.7	134	2	1.1	-39	-7	-6.8
小計	1,530	▲66	-4.3	2,100	14	0.7	-570	-80	-5.0
その他	11	0	2.9	12	0	3.1	-1	-0	-0.2
調整額	▲53	0	—	▲75	0	—	+21	-0	—
連結計	1,487	▲65	-4.4	2,037	15	0.7	-550	-80	-5.1

事業別損益推移

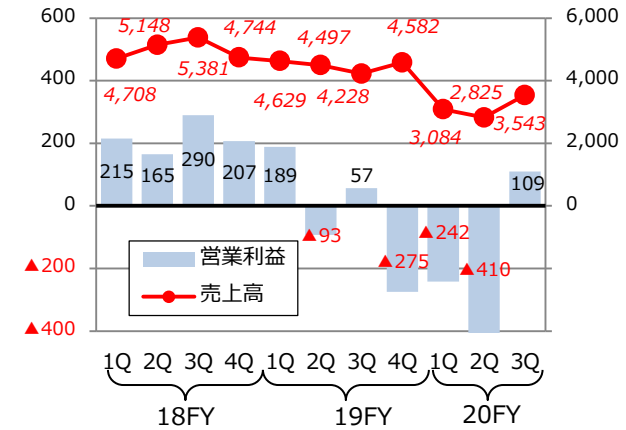
鋼材(単位:億円)



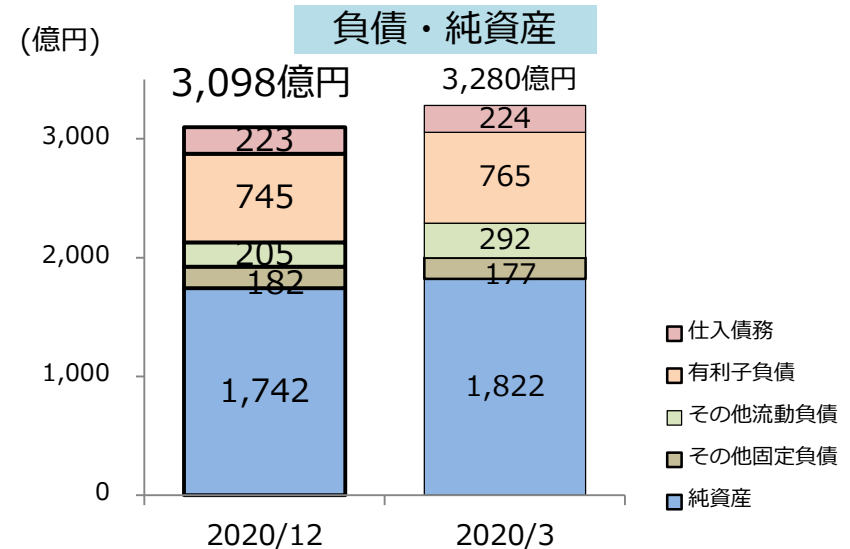
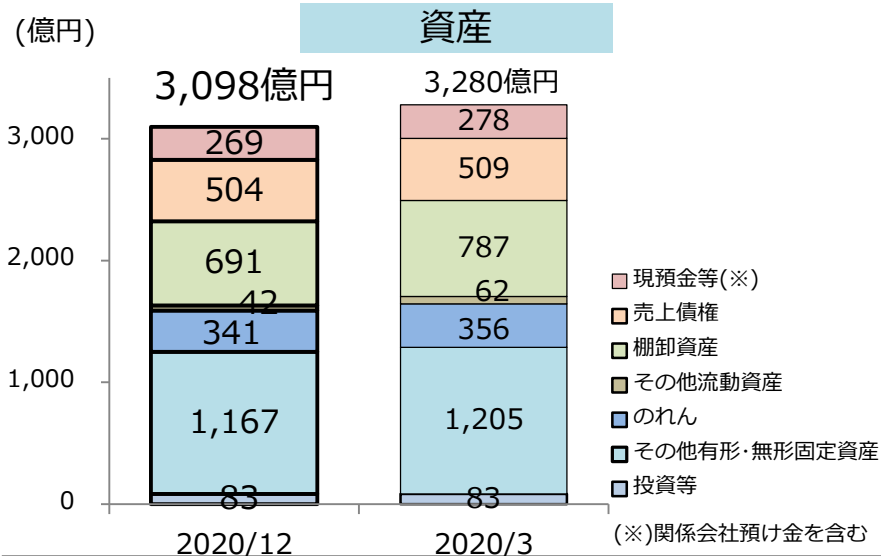
粉末(単位:百万円)



素形材(単位:百万円)



貸借対照表



資産の主な増減 -182億円 (-6%)

棚卸資産	-96億円：売上減少に伴う在庫減少、在庫削減活動
固定資産	-37億円：為替影響等
のれん	-16億円：償却 -19億円、為替影響等 +4億円

負債・純資産の主な増減 -182億円 (-6%)

その他流動負債	-86億円：未払金減少（主に設備未払金）
純資産	-80億円：利益剰余金 -59億円(四半期純損失の計上)、 その他包括利益累計額 -15億円 (為替換算調整勘定の減等)

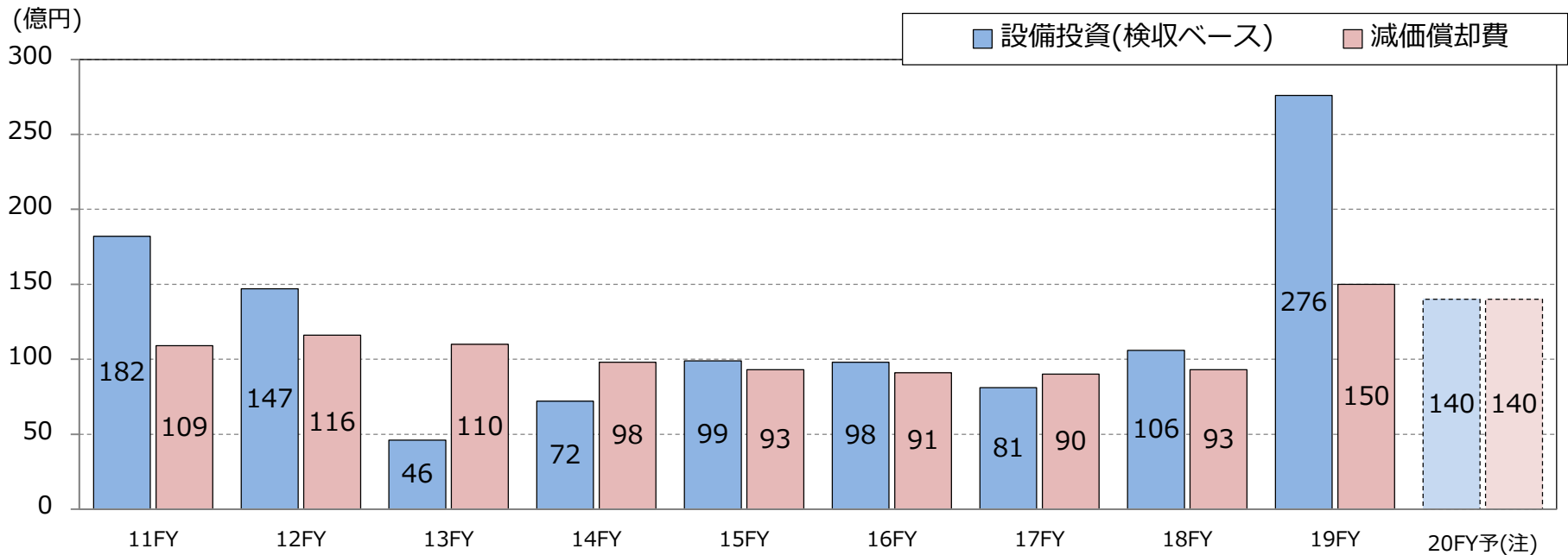
(参考)主要各社の単体総資産額(2020/12末:連結消去前)
当社 2,433億円 Ovako 849億円 MSSS 131億円

自己資本比率
2020/12末 55.2% 2020/3末 54.4%

■ Ovakoののれんについて

- ・Ovakoの営業利益は、2019FY(▲6億円)、2020FY予想(▲26億円)と2期連続赤字となるため、2021FYの営業利益が、のれん償却額の26億円を上回ることが明らかと言えない場合には「減損の兆候あり」となる(減損会計基準)。
- ・「兆候あり」となった場合でも、将来的なCFを引きのれん金額等と比較して回収不能と見込まれて初めて回収不能額を減損損失に計上することとなるが、仮にのれん全額を減損処理した場合の連結自己資本比率は5割を若干割込む程度、D/Eレシオは0.3~0.4程度と当社の財務健全性を損なうことにはならない見込み。
- ・当然のことながら、そのような事態とならないよう、損益改善に向け、固定費削減等に取り組む。

設備投資・減価償却費の推移

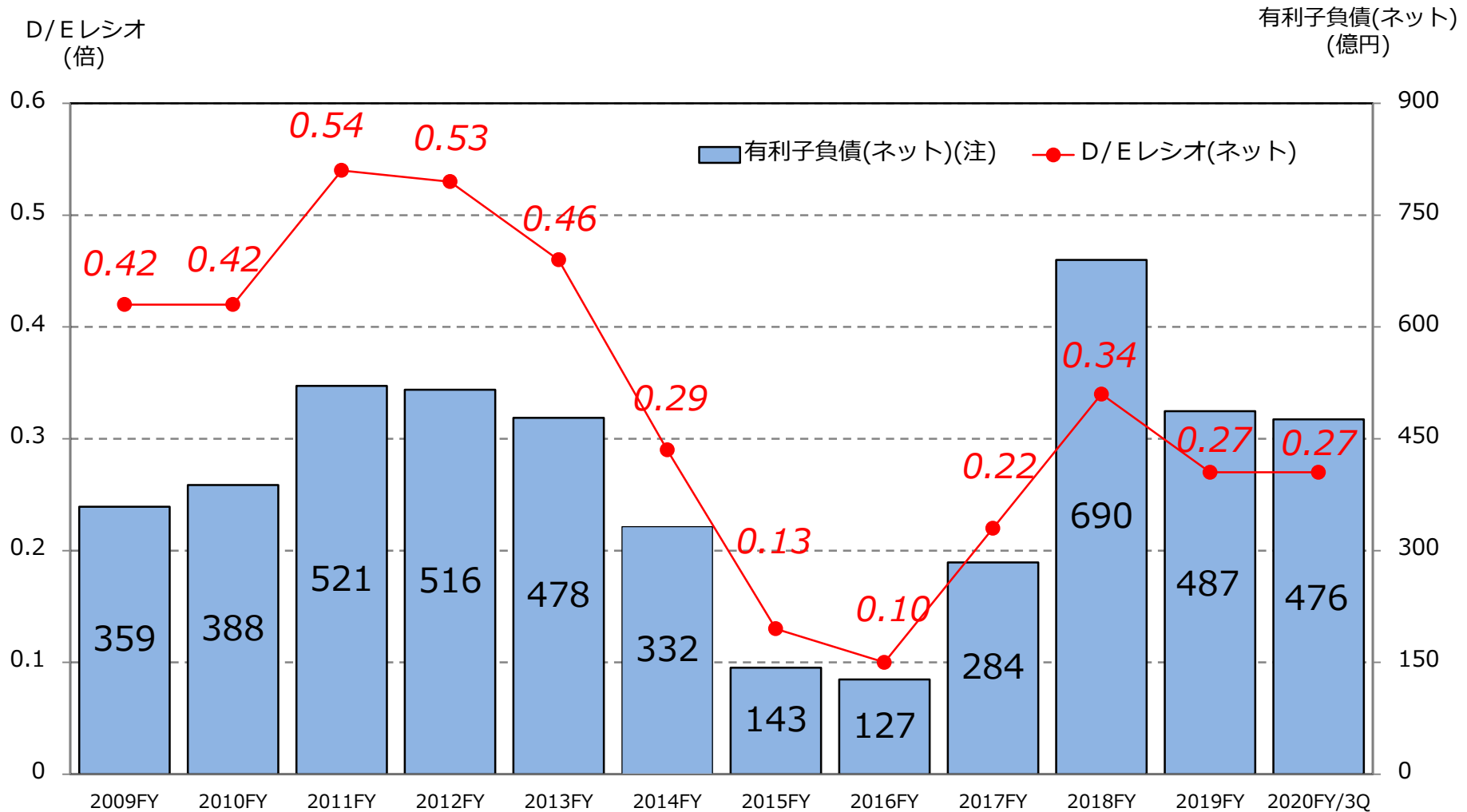


(注)2020FY予想の設備投資(検収ベース)140億円の内、当社単体94億円(内、第二棒線工場のボトルネック解消投資 50億円)、Ovako 40億円、MSSS 4億円。2020FY予想の減価償却費140億円の内、当社単体 72億円、Ovako 56億円、MSSS 4億円。

減価償却方法の変更について

- ◆2020FYより、当社および国内子会社は償却方法を変更(定率法→定額法)している
- ◆海外子会社の重要性の高まりに伴い、当社グループ会計方針統一の観点から、国内会社の償却方法を見直し
- ◆検討の結果、
 - ・当社および国内連結子会社が使用する設備は、これまで稼働状況等からみて、今後も安定的に稼働するとみられる
 - ・設備を使用して製造される製品や設備自体が市場環境や技術の変化によって早期に陳腐化するリスクは小さい
 などから、費用の配分方法として定額法の方が適しており、当社第二棒線工場ボトルネック解消設備を中心とする生産構造改革設備の本格的な稼働開始時期に合わせ償却方法を変更することとした。
- ◆従来の方法と比べ、2020FYの減価償却費発生額は△24億円減少し、在庫増減を織り込んだ損益改善効果は△19億円程度となる見込み

D/Eの推移



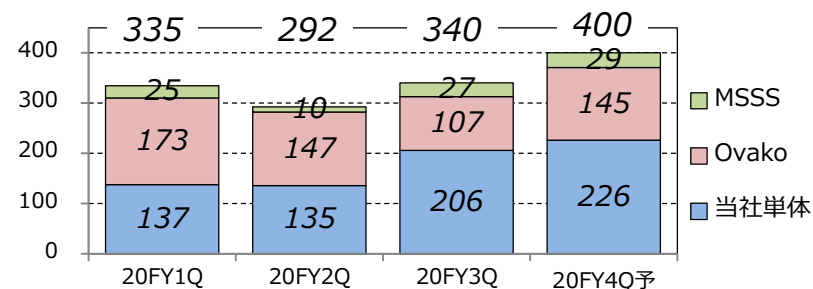
(注)有利子負債(ネット)は、有利子負債残高から現預金および関係会社預け金残高を控除したものの

2020FY業績予想 (2021年1月29日公表)

1. 2020FY見通し

- 下期は、当社単体は売上数量は前回予想より増加するが、鉄スクラップ価格上昇等により、経常利益は前回予想比-4億円の23億円の黒字。一方、Ovakoは売上数量の増加等で前回予想比+10億円の▲28億円となり、連結経常利益は前回予想比+10億円の▲25億円の見込み。
- 以上により、通期の経常利益は▲65億円となる見込み。
- なお、需要回復により、4Qは連結で2億円の経常黒字となる見込み。来年度は、販売価格の改善やさらなるコストダウンなど、一層の収益確保に向けて邁進する。

(参考)2020FY売上数量見通し(千t/Q)



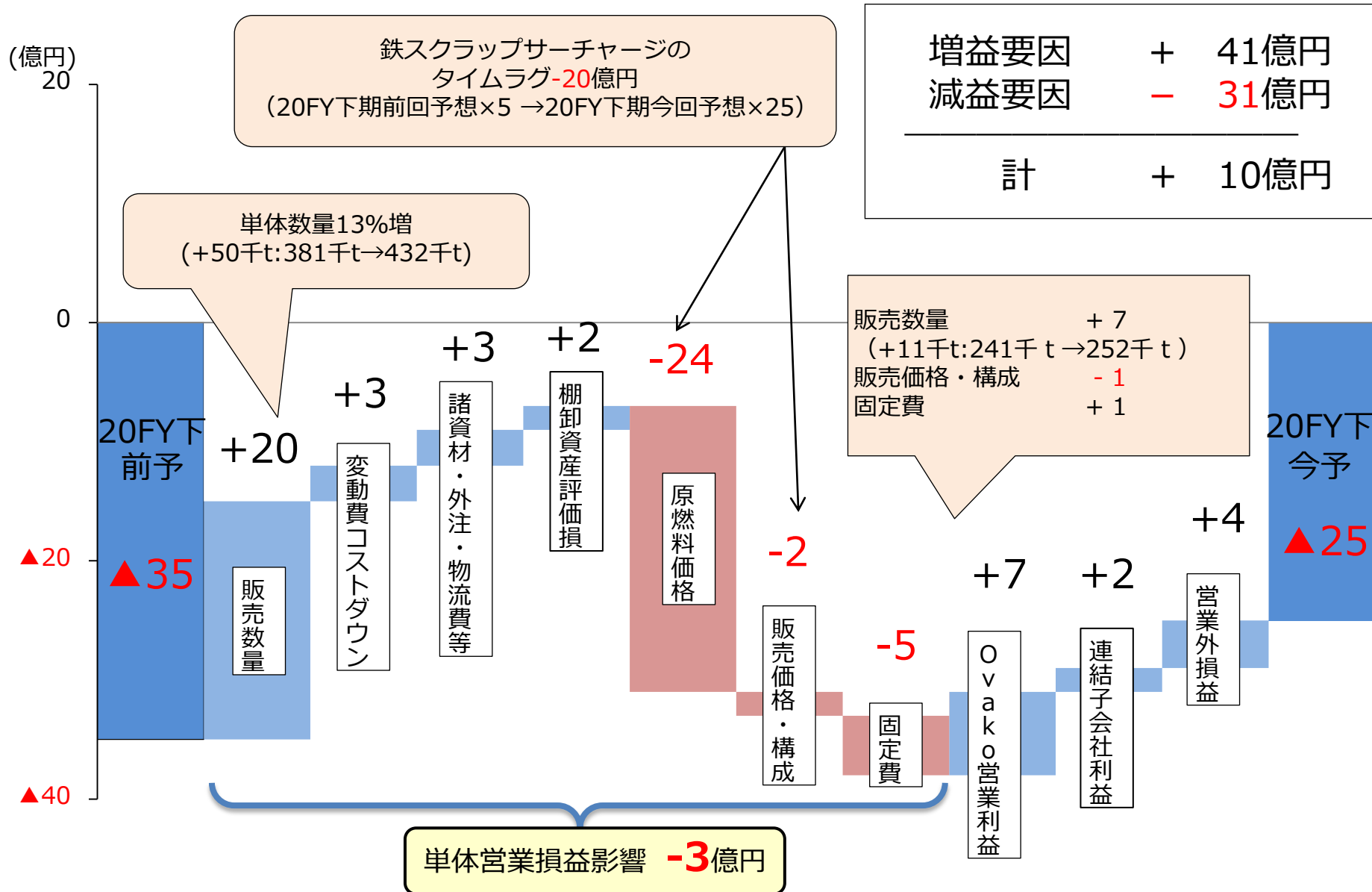
(単位:億円)

2. 2020FY業績予想

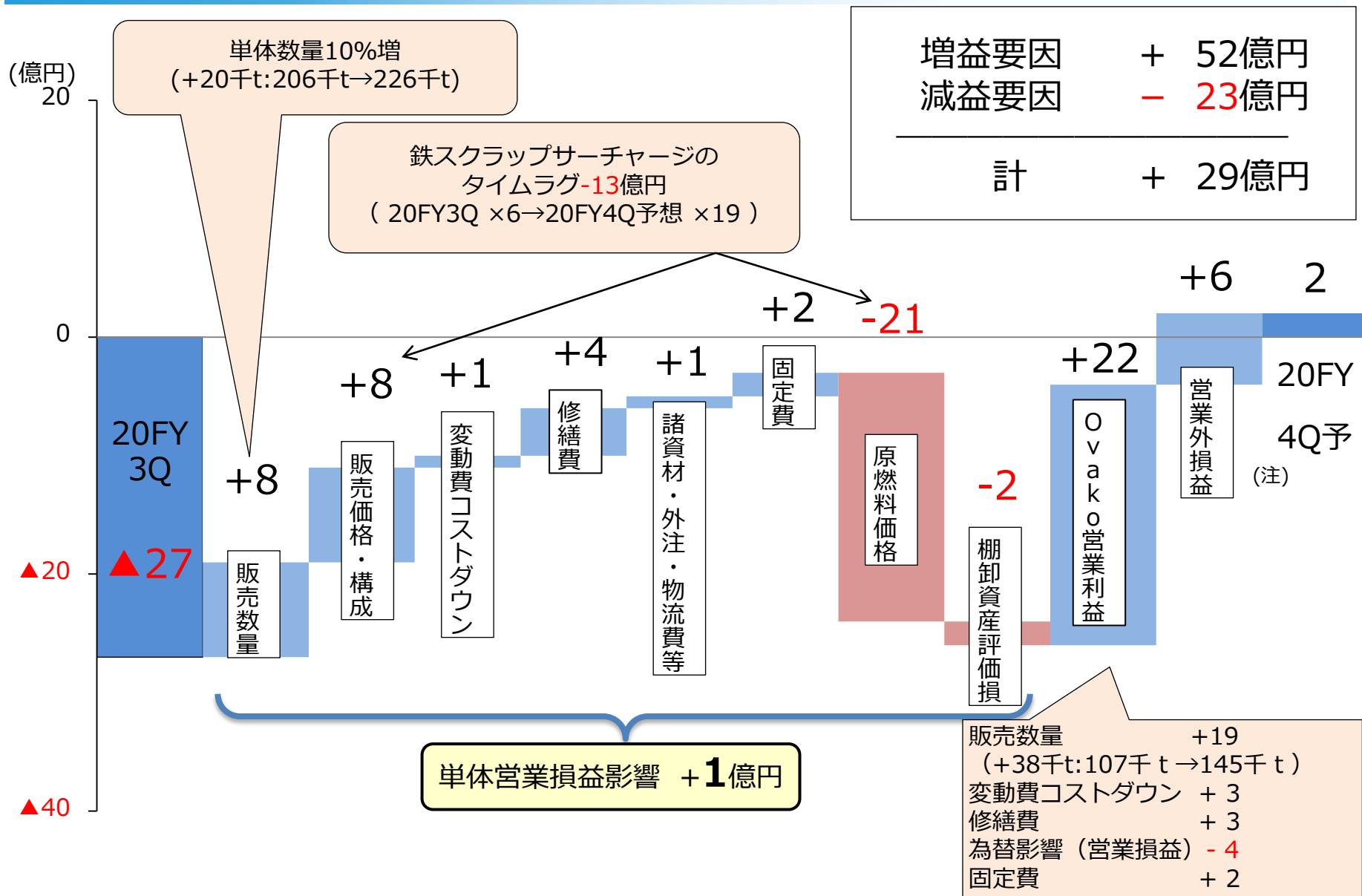
	今回予想(21/1/29)				前回予想(10/29)		変化			
	上期実績	下期		通期	下期	通期	前回下期 →今回下期	前回通期 →今回通期	3Q→ 4Q予想	
		3Q実績	4Q予想							
売上高	972	516	623	1,138	2,110	1,078	2,050	+60	+60	+107
営業利益	▲39	▲26	▲2	▲28	▲67	▲34	▲73	+6	+6	+24
経常利益	▲40	▲27	2	▲25	▲65	▲35	▲75	+10	+10	+29
内、当社単体	▲17	12	11	23	6	27	10	-4	-4	-1
内、Ovako	4	▲28	0	▲28	▲24	▲38	▲34	+10	+10	+29
内、MSSS	▲8	▲4	▲2	▲5	▲13	▲6	▲14	+1	+1	+2
内、のれん償却費	▲12	▲7	▲7	▲14	▲26	▲14	▲26	-	-	-
税後利益	▲33	▲25	2	▲24	▲57	▲33	▲66	+9	+9	+27
税後利益(構造ベース)	▲21	▲19	8	▲10	▲31	▲19	▲40	+9	+9	+27
売上数量(千t)	627	340	400	739	1,366	679	1,306	+60	+60	+60
内、当社単体	273	206	226	432	704	381	654	+50	+50	+20
内、Ovako	320	107	145	252	572	241	560	+11	+11	+38
内、MSSS	35	27	29	56	91	57	92	-1	-1	+2

【予想の主要前提(2021年1月以降)】・鉄スクラップ(購入) 41.0千円/t(姫路地区H2市況) ・原油(ドバイ) 60\$/BL ・為替 105円/\$、125円/€

経常利益の変化要因 (2020FY下期前回予想→2020FY下期今回予想)

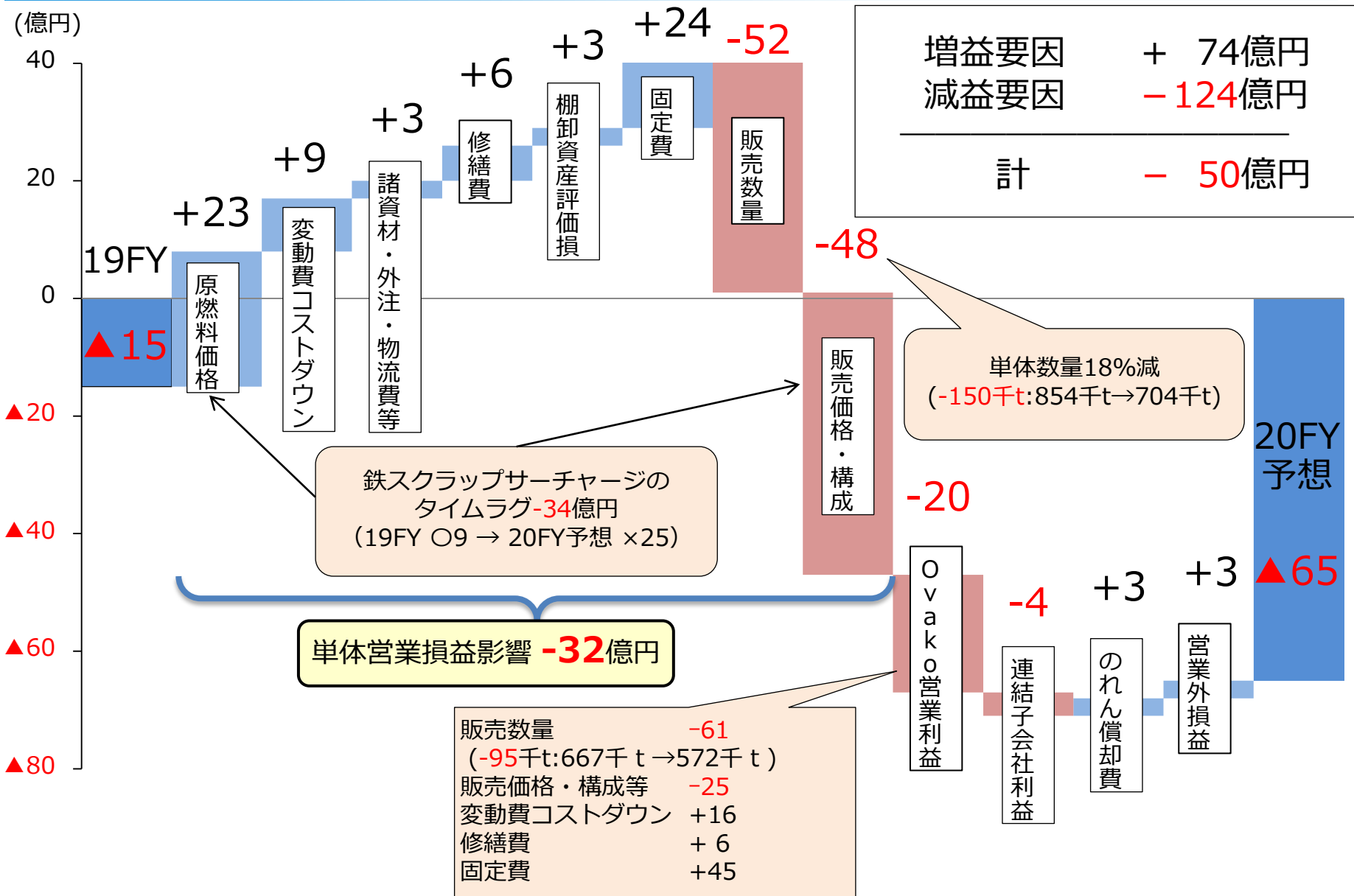


経常利益の変化要因 (2020FY3Q→2020FY4Q予想)



(注) 内、Ovako為替差損益 6億円

経常利益の変化要因 (2019FY実績→2020FY今回予想)



当社単体業績

2020年度の見通し

コロナ影響

自動車、産業機械・建設機械など主要需要業界の活動水準の低下により受注が大幅に減少していたが、夏頃から改善し、景気回復局面(右図参照)

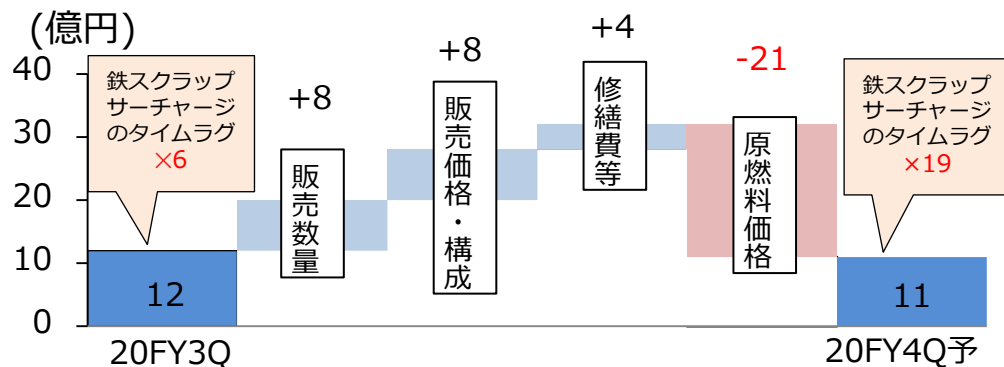
(2020年度の状況および見通し)

2020年度上期は、収益改善対策による固定費削減効果等があったものの、コロナ影響による売上数量減(対2019FY上期比▲41%減)などにより経常損益は▲17億円の赤字。

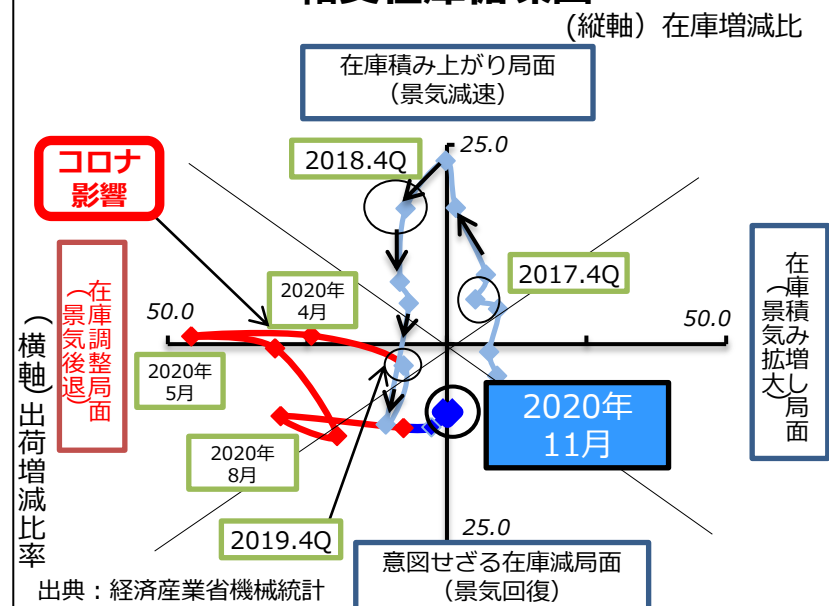
3Q以降は、自動車を始め、産業機械、建設機械向けの需要回復から売上数量が回復し、3Q経常利益は、12億円の黒字。4Qは、3Qよりさらに売上数量回復の一方で、鉄スクラップ価格上昇の影響もあり、経常利益は、11億円の見込み(下記分析図参照)。

以上により、下期の経常利益は23億円の黒字、通期の経常損益は6億円の黒字の見込み。

今後は、販売価格改善を確実にかつ迅速に実行。また、生産面では継続して最適コスト操業を徹底しつつ、需要回復を確実に捕捉して顧客からの受注に対応し、収益アップを目指す。



軸受在庫循環図



収益確保に向けた施策

(1) 固定費緊急削減対策の継続実行

休業、管理職給与の一部自主返上、残業時間の適正化、その他経費の削減に引き続き取り組む。

(2) 利益を確保するための強靱な体質構築

営業面では、非サーチャージ向け販売価格値上げを始めとした価格改善を確実に実行し、適正マージンを確保。また需要回復を確実に捕捉し、限界利益最大化に資するよう拡販に取り組む。生産面では量に見合った効率的な生産を行い、最適コスト操業を徹底。

生産・販売が足元の水準で推移したとしても、確実に安定的な利益を計上できる強靱な企業体質を構築する。

Ovako業績

本社スウェーデンストックホルム。スウェーデン、フィンランドに工場を有する特殊鋼・鋼管・リング等の製造・販売会社。2019年3月完全子会社化。

2020年度の見通し

(2020年度の状況及び見通し：2020年1～12月)

1Qは需要が回復し、コロナ影響も軽微となり5億円の経常黒字。2Qはコロナ影響が現出し赤字となったが、上期は4億円の経常黒字を確保した。

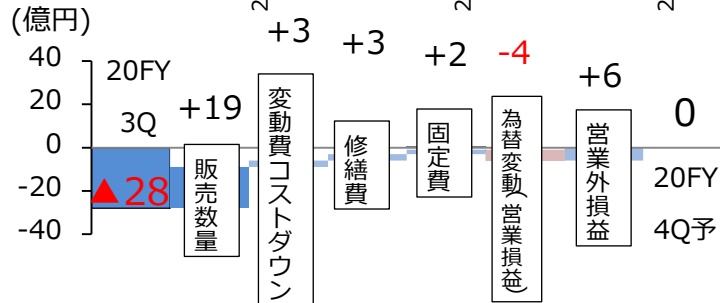
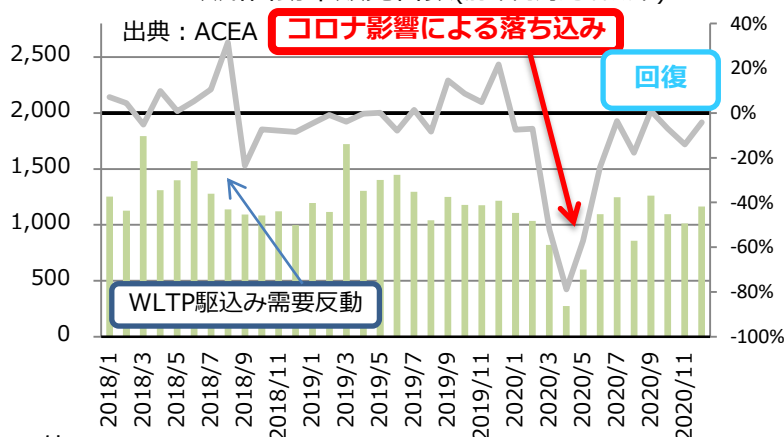
3Qにコロナ影響が最大化、7月の夏季設備休止により売上数量は低いレベルに留まり、経常利益は▲28億円。4Qは冬季設備休止はあるものの、販売数量の回復やコスト削減などから経常利益は0億円の経常黒字となる見込み(3Q→4Q：▲28→0と29億円の改善見込み)。

下期および通期の経常損益はそれぞれ▲28億円、▲24億円の予想。受注環境は今後も回復を見込む。なお、3Qに下記人員削減に伴う費用約3億円を特別損失として計上。

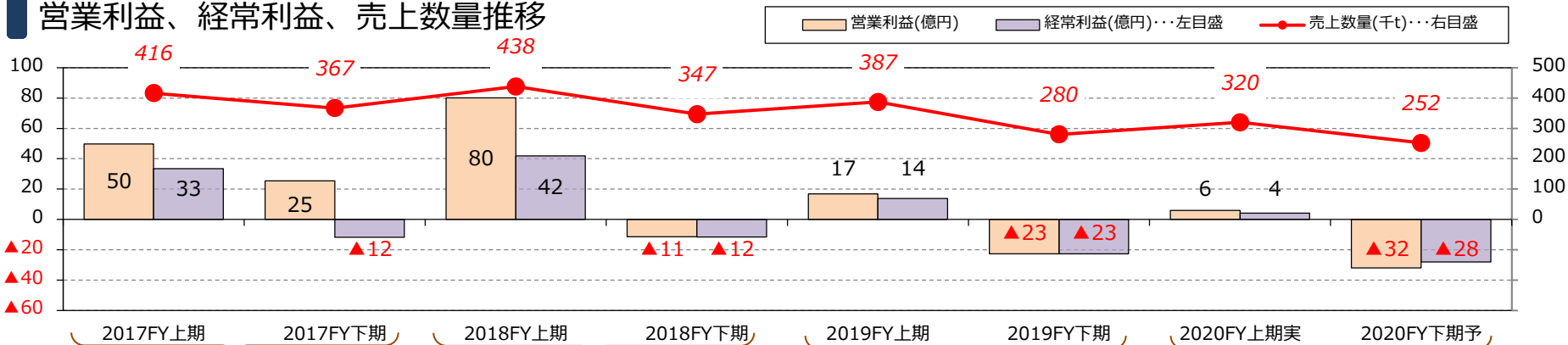
(収益改善策、サポート体制)

- ・雇用調整制度を活用した一時レイオフ(2020年12月まで)
- ・2020年度下期で120人程度の追加人員削減を決定し実行中。対象事業所の1割程度が対象。
- ・3社連携によるシナジー効果の発揮(引き続き実施)
 - ① 拡販活動の推進
 - ② 操業コストの削減
 - ③ 調達コストの削減
- ・Ovakoアドバイザリーコミッティー設置…当社社長をヘッドとした経営サポート体制を構築し、Ovakoの収益改善に向けた取り組みの支援を強化。

欧州自動車販売台数(前年同月比増減率)



営業利益、経常利益、売上数量推移



下期～: WLTP駆込需要の反動

顧客の在庫調整が継続

2020FY予想
2Q、3Q: コロナ影響現出

MSSS業績

Mahindra Sanyo Special Steel Pvt. Ltd.
 本社インドムンバイ。特殊鋼一貫製造・販売子会社。2018年6月子会社化。

2020年度の見通し

インド国内自動車販売

2018年11月以降前年同月比 マイナス継続
 2019年8月 前年同月比▼30%超
 2019年10～2020年2月 落込み幅縮小
 →大幅な在庫調整終息見通し
 2020年3～7月 コロナ影響により自動車販売落込
 2020年8月～ 自動車販売回復の方向へ

コロナ影響

- ・ MSSS工場所在地であるマハラシュトラ州コポリ地区がロックダウン、MSSSは3月下旬から5月中旬、7月中旬から下旬にかけて操業停止
- ・ 医療用酸素供給優先のため、酸素調達が限定的となり、低酸素操業を実施（現状解消済）
- ・ 自動車を中心に需要は大幅に低下したが、自動車販売は2020年4月を底に前年同月比のマイナス幅が縮小、8月以降は前年同月比プラスで、足元の受注は堅調

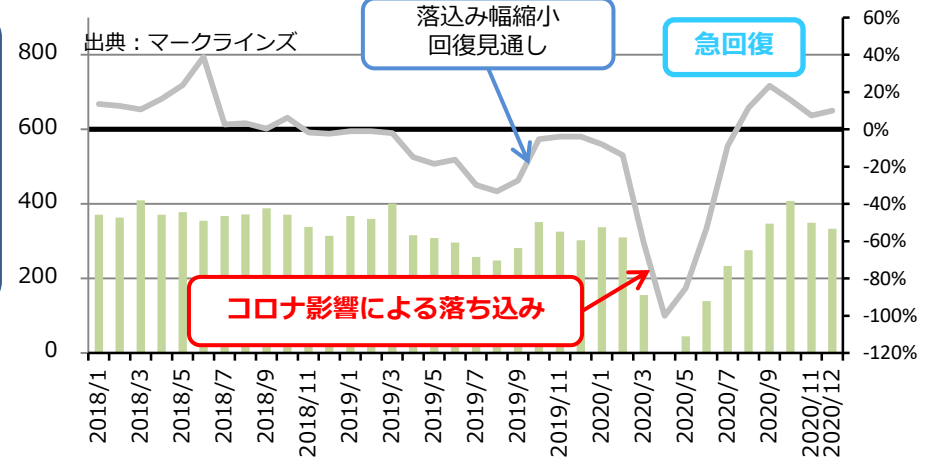
(2020年度の状況および見通し：2020年1～12月)

1Qは鉄道向け出荷再開で、前年度4Qに対し売上数量増となったが、2Qはコロナ影響で売上数量が減少し、上期の経常損益は▲8億円の赤字。

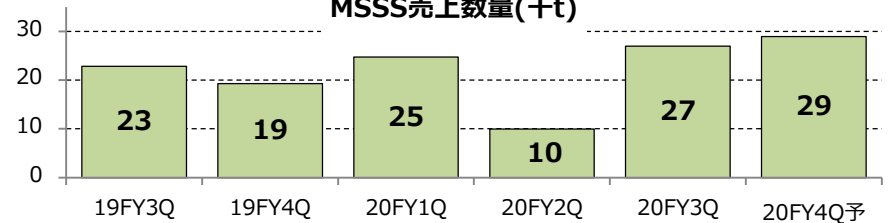
売上数量の減少は2Qに底打ちし、3Qは回復、4Q以降も回復すると見ている。3Qから4Qにかけて販売価格の値上げもあり、経常利益は2億円の改善を見込む(3Q→4Q: ▲4→▲2億円)。

以上より、経常損益は下期▲5億円、通期▲13億円の予想。販売数量の確保や販売価格改善に取り組むとともに、今後も継続して収益改善策を遂行し、黒字化をめざす。

インド自動車販売台数(前年同月比増減率)



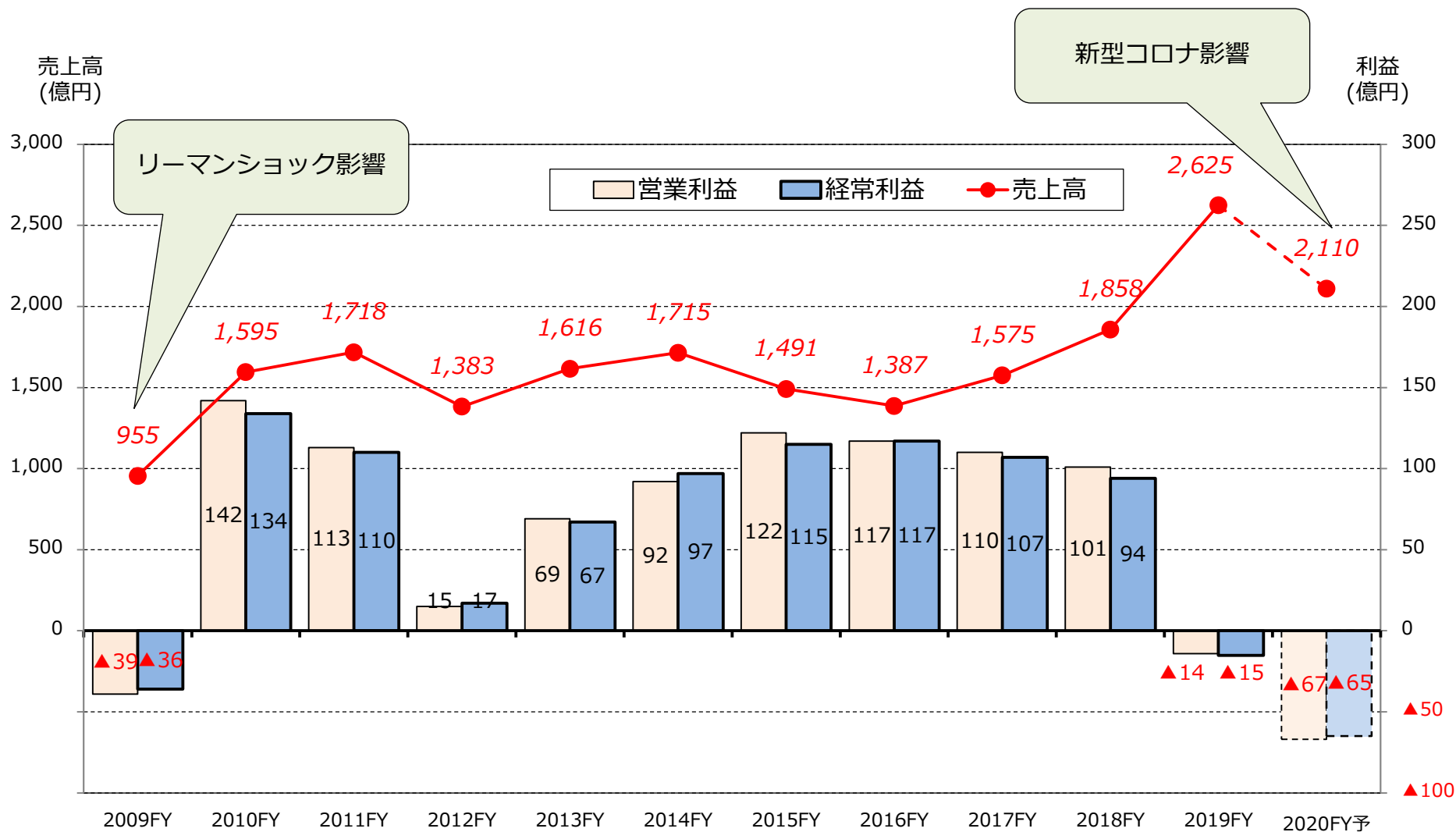
MSSS売上数量(千t)



収益改善策

- ・ エネルギー原単位改善や安価原料の有効活用による操業コスト・調達コストの削減
- ・ 営業体制の拡充、販売数量の確保と高収益品の受注量拡大
- ・ 鉄道向け受注の安定出荷(2千t/月を見込む)
- ・ 要員適正化を含む労務コストの削減

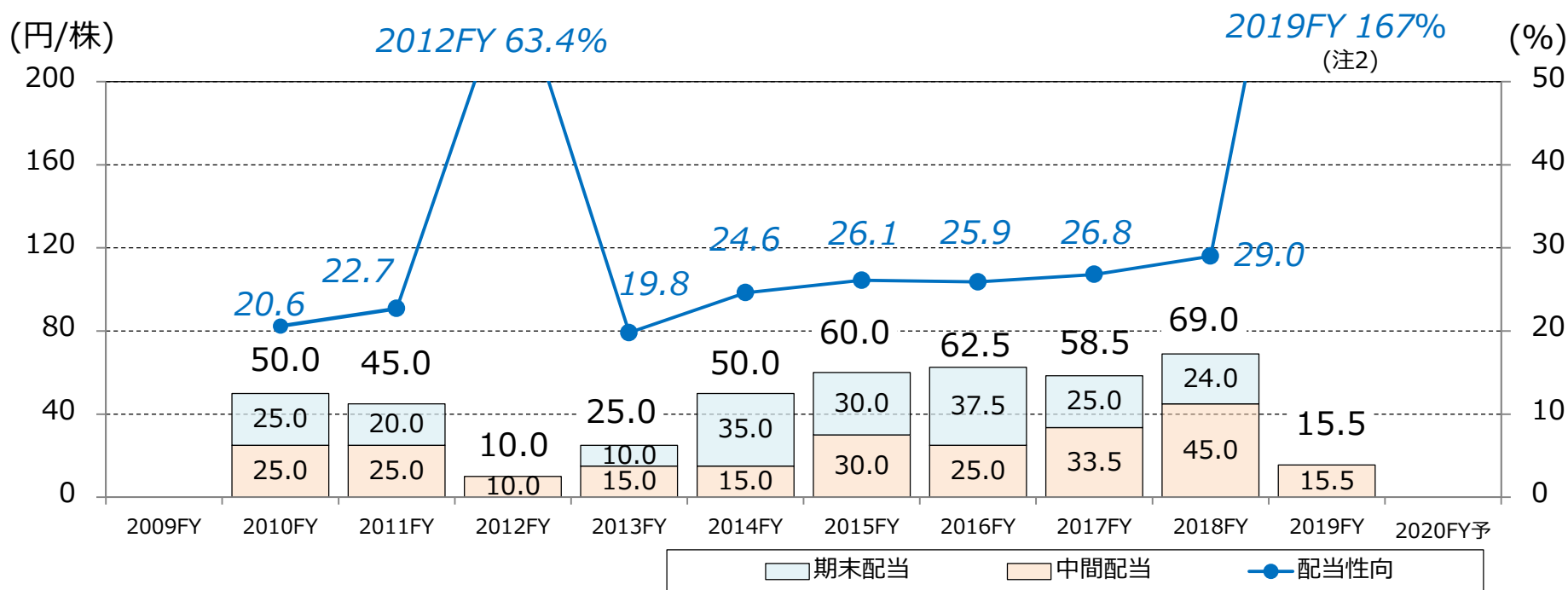
業績推移(年度)



(注) 2018FY2QからMSSS損益を連結、2019FY1QからOvako損益を連結。

配当について

当期(2020FY)の期末配当につきましては、通期損益が赤字の見通しであることから、誠に遺憾ながら、無配の予定のままとしております。



(注1) 2017年10月1日に株式併合(5株を1株)を実施。当該株式併合を踏まえて換算。

(注2) のれん償却前の1株当り当期純利益より算出。

(注3) 2019年度に1,730千株(約25億円)の自己株買いを実施し、2019年12月27日に従来所有分(1,200千株)と合わせて計2,930千株(消却前の発行済株式総数の5.1%)の自己株式を消却。

トピックス ESG

(1) ゼロカーボンへの取り組み

日本経団連「チャレンジ・ゼロ」イノベーション事例

事例①「長寿命風力発電用軸受鋼の開発による
CO₂ゼロ・エミッション化への貢献」

- ・風力発電は発電のCO₂排出ゼロ化に向けた有効な方策の一つ。
- ・連続的に安定した発電が行える発電設備とするため、当社は、優れた高纯净度化技術を基に、安定した長寿命特性が得られる風力発電用軸受鋼の開発を目指す。

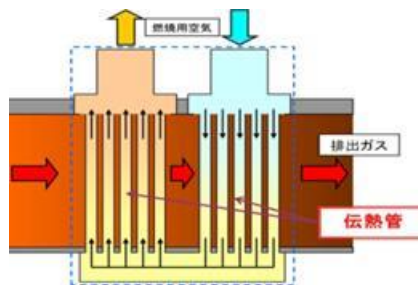


【風力発電設備外観】

日本経団連「チャレンジ・ゼロ」イノベーション事例

事例②「熱交換器用高強度耐熱鋼管の開発による
各種工業炉操業におけるCO₂排出量削減」

- ・工業炉では、CO₂排出量低減のため廃熱回収装置(換熱型レキュペレータ)を設置しエネルギー効率の向上を図っている。
- ・当社は、換熱型レキュペレータの熱回収効率向上を可能にする熱交換器用高強度耐熱鋼管を開発、実装拡大を図ることで脱炭素社会の実現に貢献していく。



【レキュペレータにおける熱交換概説図】

持続可能な社会の実現に向けたCO₂削減やエネルギー効率向上のためには、信頼性の高い特殊鋼製品のニーズは一層高まる。

そこを商機と捉え、当社の強みである高信頼性鋼製造技術や合金設計・組織制御の技術を生かし、需要家の多様かつ高度なニーズに応えていく。

事例③「Ovako社 ピット炉で水素を用いた鋼片加熱を行うテスト成功」

- ・2020年4月に当社の関係会社であるOvako社のHofors工場にて世界で初めてピット炉で水素を用いた鋼片加熱テストに成功(Linde Gas社と共同テスト)。
- ・この技術での生産を行えば、加熱時に二酸化炭素を発生させないため、従来に比べて環境負荷を大幅に軽減することが可能となる。
- ・Ovako社の試算によれば、年間20,000トンのCO₂削減が可能



【ピット炉での鋼片加熱の様子】

トピックス ESG

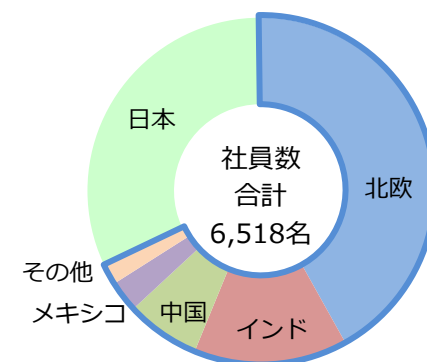
(2) ダイバーシティ推進体制を整備 (2021年1月～)

- ・当社は、社員一人ひとりの能力発揮による企業の競争力向上を目指し、人事・労政部に「**ダイバーシティ(人材多様化・活用)推進グループ**」を設置。

当社は、従来よりハード・ソフト両面で女性活躍推進のための環境整備を進め、現在の女性社員比率は、企画職25%、技術職6%

近年、当社グループは、在籍する全社員のうち約70%が外国籍となるなどグローバル化。

当社グループ社員の国別状況
(2020年12月末時点)



- ・グローバルな領域で、全社員が性別、年齢等にかかわらず活躍できる体制を整えるため、ダイバーシティ推進専門組織を設置
- ・以下の課題に取り組み、企業の競争力強化につなげる。
 - ①さらなる女性活躍支援
 - ②定年延長後の高齢社員の活用
 - ③障がい者の安定雇用



ダイバーシティ推進グループ長
南 智佳子

トピックス その他**(3) 第二棒線工場のボトルネック解消投資 完了**

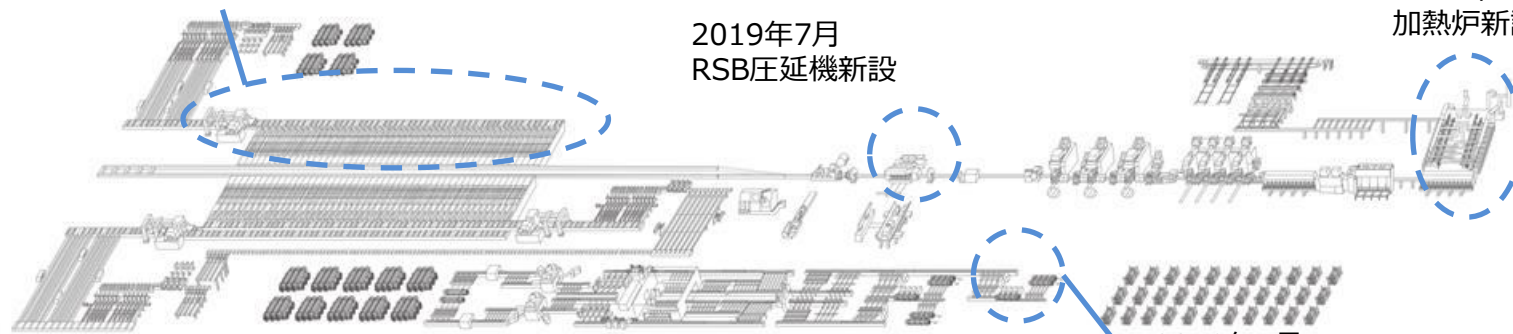
- ・ 2021年1月、新加熱炉が完成し、第10次中期経営計画の中核である第二棒線工場ボトルネック解消設備投資が完了。
- ・ 生産能力の増強だけでなく、小径化・小ロット化など需要構造の変化に将来にわたり対応できる工場にリフレッシュ。
- ・ RSB圧延機は、高圧下により鋼材の品質が向上、圧延スタンド数減およびフリーサイズ圧延によりロール替えの工程休止時間が減少。小径化・小ロット化が進展しても効率を落とさず対応できる。
- ・ 今後、さらなる品質・納期・コスト競争力アップを目指す。

【完成した新加熱炉】

**第二棒線工場のボトルネック解消投資**

2020年1月

冷却床・コールドシャー新設

2019年7月
RSB圧延機新設2021年1月
加熱炉新設2019年7月
NM検査結束2ライン化

トピックス ESG

(4) 「山陽特殊製鋼レポート2020」を発行 (2020年11月26日)

- ・ 当社のESG（環境・社会・ガバナンス）への取り組みなどについて取りまとめた統合報告書を発行
- ・ MSCI、FTSE等の評価レポートを踏まえ、気候変動への取り組みなど開示内容を充実
- ・ 当社ホームページにて閲覧可能
http://www.sanyo-steel.co.jp/system/upload/news/2020_all.pdf

**(5) 地域美化活動を実施 (2020年11月19日)**

- ・ 地域への貢献活動の一環として、工場周辺地域の清掃活動を実施
- ・ 毎年開催しており、当社グループ従業員がボランティアとして参加

※マスクの着用など新型コロナウイルス感染予防対策を図り実施



【地域美化活動の様子】

新型コロナウイルス感染症への対応(2021年1月29日時点)

国内での対応

緊急事態宣言が発出されたことを鑑み、感染予防対策を厳格化（青字部分）

- ・ 事業活動継続に必要な従業員に絞って出社。事務所、支社・支店勤務者は原則20時までに帰宅
- ・ 支社・支店では、在宅勤務を原則とし、出勤率は3割とする
- ・ 会議・行事はWeb等の利用を基本とし、開催する場合は人数・時間の最小化を図る
- ・ 社外との対面での会議は原則として控える
- ・ テレワーク環境を整備
- ・ 混雑時間帯を避けた出退勤（姫路地区での公共交通機関利用 4%）
- ・ 食事場所は席の距離を可能な限り確保。会話は控え、会話する場合はマスクを着用
- ・ アルコール消毒液、マスクの配布
- ・ サーモグラフィーカメラ、体温計の設置
- ・ 出社前の検温を実施。来訪者も入構時に検温を実施
- ・ 手洗い、うがい、アルコール消毒、マスク着用、室内の換気
- ・ 海外出張は原則禁止。国内出張は原則見合わせ、Web会議等を活用
- ・ 懇親会は公私、規模を問わず原則見合わせ

海外での対応

- ・ 基本的に各国の法令・方針に従った措置を行う。
- ・ 海外の情報収集、海外駐在員・家族へのサポート実施
- ・ 出社前の検温を実施
- ・ 手洗い、うがい、アルコール消毒、マスク着用の励行

緊急収益改善対策

早期の収益改善を図るため緊急収益改善対策(2020年1月31日公表)

項目	実施内容		実施期間
①役員等報酬の一部返上(※)	代表取締役社長	報酬月額の20%	2020年2月分報酬から当面の間
	取締役常務執行役員	報酬月額10% 報酬月額10% 報酬月額7%	
	フェロー 執行役員		
	参与		
②雇用調整助成金制度を活用した休業等	本社工場勤務の全従業員を対象とした2日/月程度の休業等の雇用調整助成金制度の活用		2020年3月1日から当面の間
③管理職給与の一部自主返上	部長、室長層	給与月額5%	2020年2月分給与から当面の間
	グループ長、課長層	給与月額3%	
	その他管理職	給与月額1%	
④その他経費の削減等	不急の出費・投資の抑制など、可能な限りの経費節減および徹底したコストミニマム操業を実施		

※なお、常勤監査役より監査役報酬月額の10%を同期間返上するとの申し出がありました。

- ・上記の年間効果額 5億円
- ・上記以外に、業績連動賞与・残業代の減少で、2019年度5億円、2020年度は10億円(2019年度比+5億円)の労務費減を見込む
- ・Ovako、MSSSを含む連結子会社でも更なる収益改善に取り組む

コロナ影響拡大後(2020年3月～)

- ・「雇用調整助成金制度を活用した休業」は、本社工場勤務者のほか、支社・支店勤務者にも対象を拡大。コロナ特別措置法により、残業控除がなくなり、休業1日当たりの支給単価もアップ。
- ・生産量の減少と作業効率向上への工夫・改善により、残業時間を大幅に削減。またWeb会議の積極利用等により旅費交通費が減少。
- ・Ovakoでは4月から同国雇用調整金制度を活用した一時休業を実施し、大幅に固定費削減。また、120人程度の人員削減を決定。対象事業所の1割程度が対象。固定費削減の一部恒久化を図る。

自動車市場の動向

日本自動車販売台数 (前年同月比増減率)



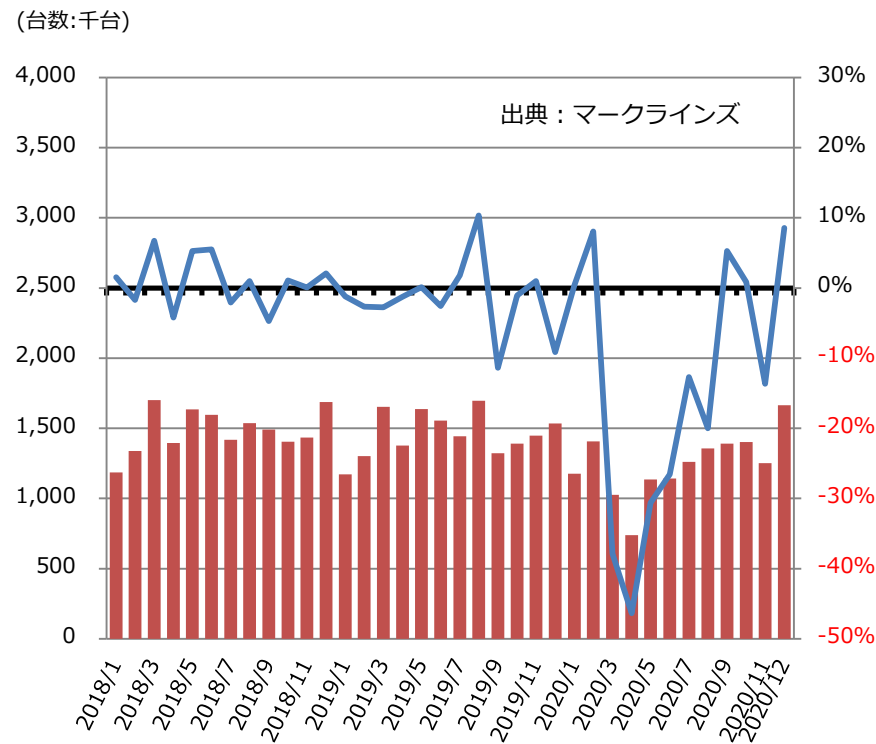
2020/11以降、マイナス幅は縮小傾向だったが、2020/4以降は新型コロナウイルス影響で下落継続。

2020/05は、前年同月比で-44.8%と大きく下落した。

2020/06以降は、前年同月比のマイナス幅は縮小し、2020/09は前年同月比-14.3%。

2020/10は前年同月比で+29.3%と大きく上昇。前年同月が消費税増税や大型台風被害により大幅な減となっていた反動によるもの。2020/12の前年同月比は+10.2%。

米国自動車販売台数 (前年同月比増減率)



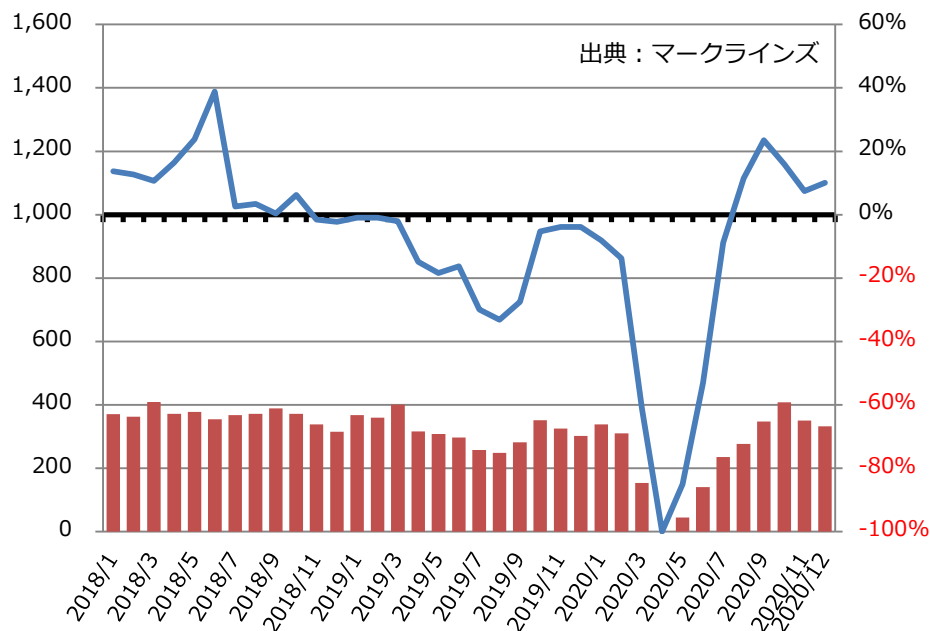
2019年前半はやや回復基調ではあったが、後半からストライキ等の影響もあり鈍化。2020/02は回復が見られたが、2020/3以降は新型コロナウイルス影響で下落傾向が顕著。2020/04は前年同月比で-46.3%と大きく下落。

2020/05以降は前年同月比のマイナス幅が縮小し、2020/09は+5.3%まで回復。2020/11は営業日数が3日減少した影響で前年同月比-13.7%となったが、2020/12は同+8.6%。

自動車市場の動向

インド自動車販売台数 (前年同月比増減率)

(台数:千台)



保険料引上げ、燃料価格上昇、自動車ローン貸渋り、雇用環境悪化などの影響で、2018/07頃から長期にわたり落込みが継続。

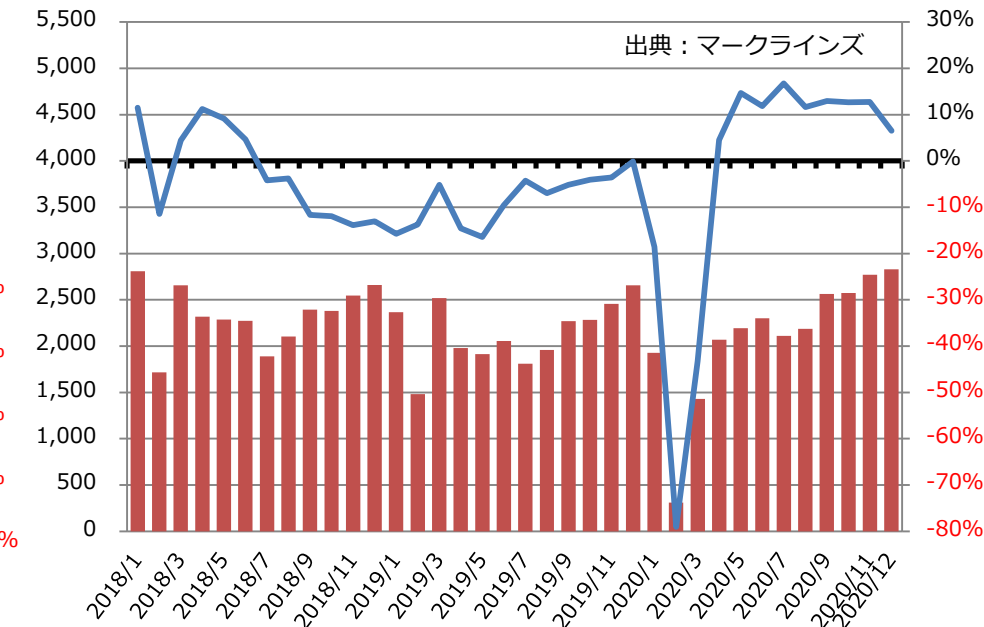
2019年秋口を底に、底打ちの兆しがあったが、2020/3以降は新型コロナウイルス影響で下落が顕著。

2020年3月25日からインド全土のロックダウンとなり、2020/04は前年同月比で-100%。段階的にロックダウンは解除され、5月になってから販売が再開。2020/08には前年同月比プラスに回復し、2020/09は+23%まで上昇。以降前年同月比プラスで推移し2020/12は+10%。

中国自動車販売台数(工場出荷台数ベース)

(前年同月比増減率)

(台数:千台)

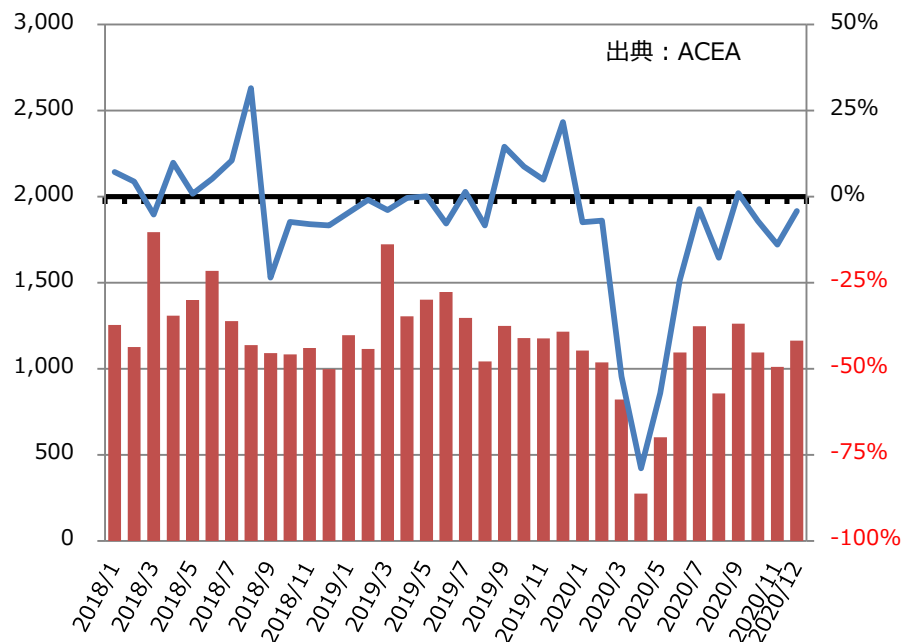


米中貿易摩擦、都市部での新排ガス基準導入影響で、2018年後半から前期比で落込。2019年夏ごろよりマイナス幅縮小傾向であったが、新型コロナウイルス影響で2020/2は前年同月比-79%と大きく下落。その後は回復基調となり、2020/05以降は新型コロナウイルスの感染がおおむね抑制されたことを受け、前年同月比で+10%超が継続。2020/12は同+6.5%。

自動車市場の動向

欧州自動車販売台数 (前年同月比増減率)

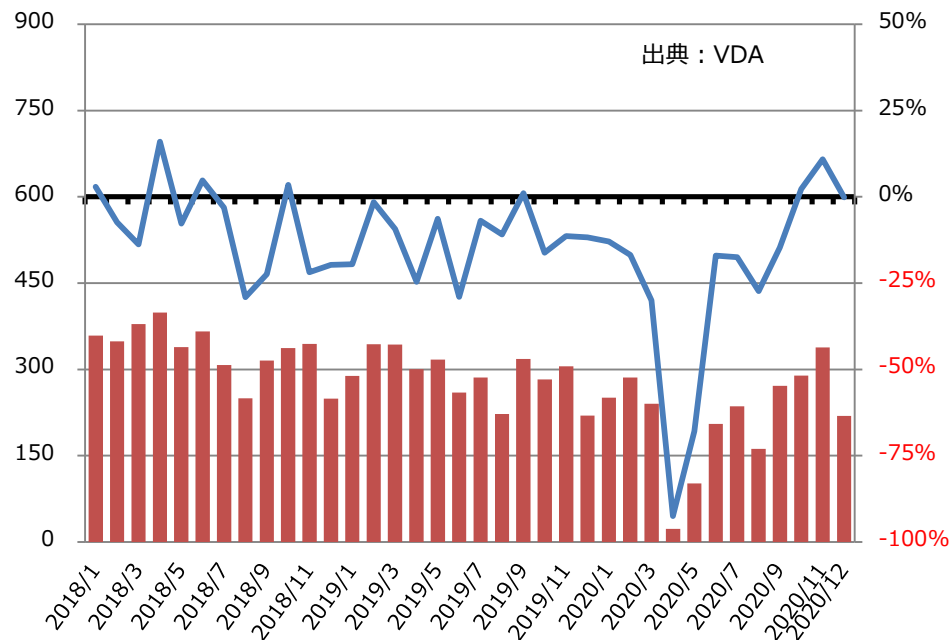
(台数:千台)



2018/09の落込みはWLTP導入影響。以降はブレクジットや米中貿易摩擦などの懸念材料もあり、2019年夏頃までは、低調に推移。2019/09から回復の傾向がみられていたが、新型コロナウイルス影響で、2020/04は、前年同月比-79%と激減。2020/05以降、前年同月比のマイナス幅は縮小。2020/09は+1%となったが、2020/10以降は新型コロナウイルス感染再拡大の影響を受けマイナス圏で推移、2020/12は前年同月比-4.2%。

ドイツ自動車輸出台数 (前年同月比増減率)

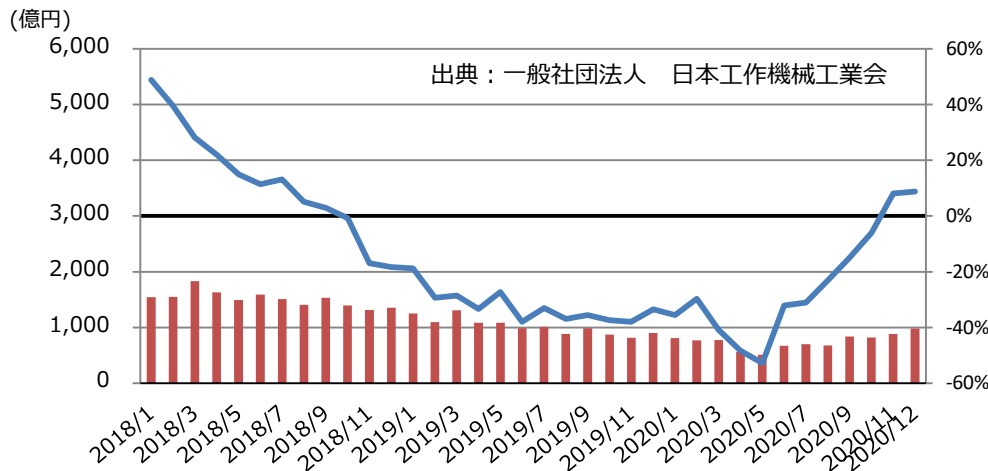
(台数:千台)



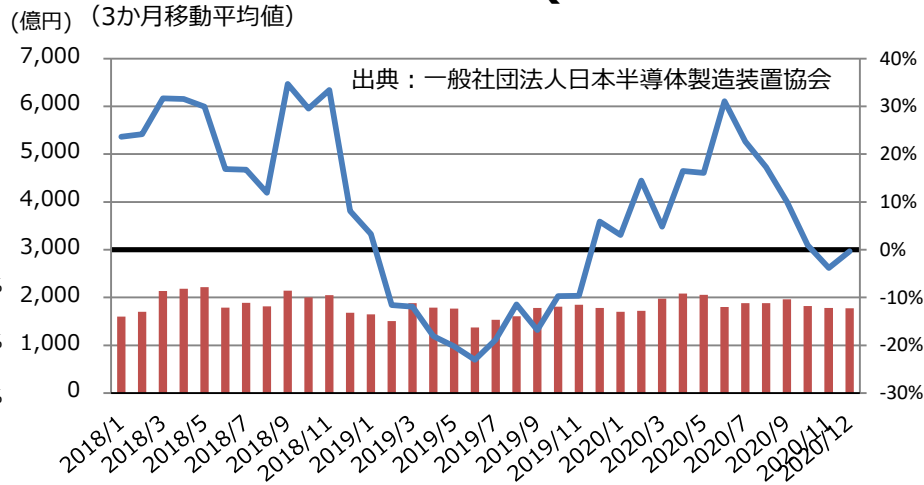
2018年以降、米中貿易摩擦の影響等で中国での自動車需要が減少、在庫調整もあり低位で推移していたところ、新型コロナウイルス影響で、2020/04は、前年同月比-92%と大きく下落。2020/05以降は前年同月比のマイナス幅は縮小、2020/11には+10.9%まで回復。2020/12は前年同月比-0.2%。

産業機械・建設機械市場の動向

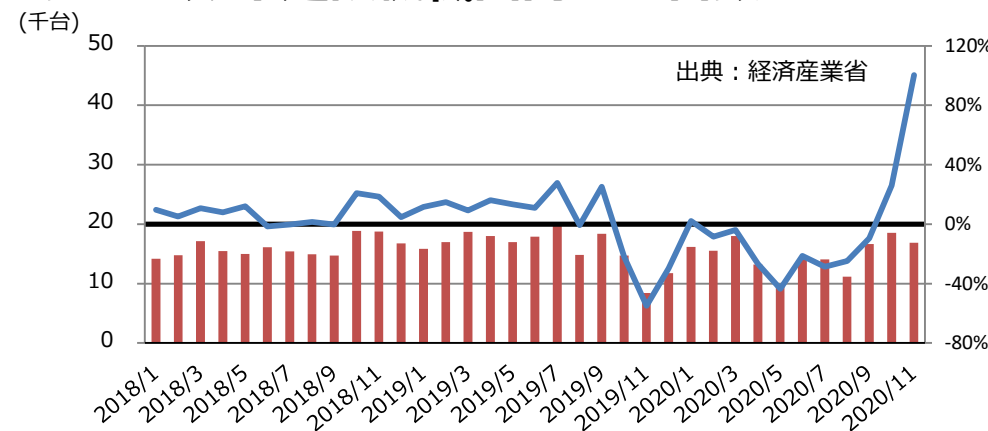
工作機械受注金額（日本）（前年同月比増減率）



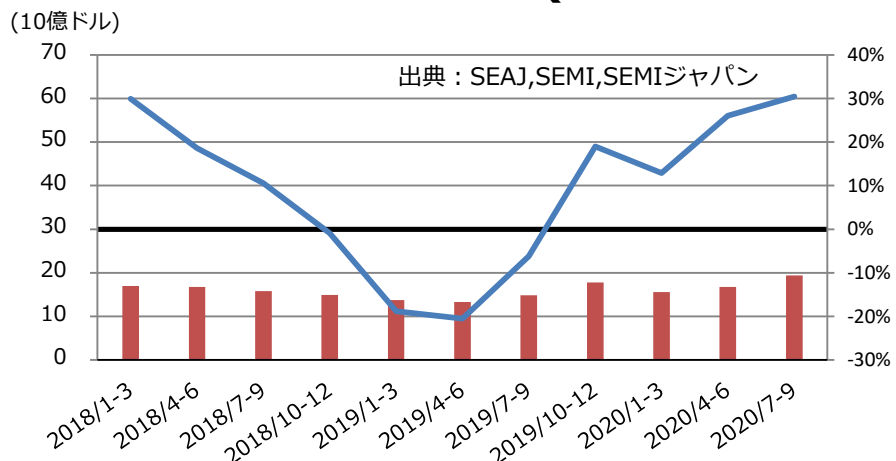
半導体製造装置販売金額(日本)（前年同月比増減率）



ショベル系建設機械国内生産台数(前年同月比増減率)



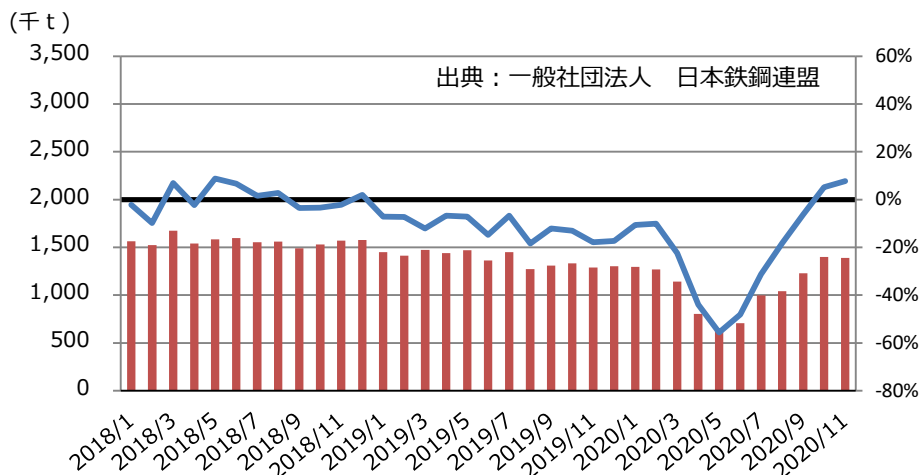
半導体製造装置販売金額(世界)（前年同月比増減率）



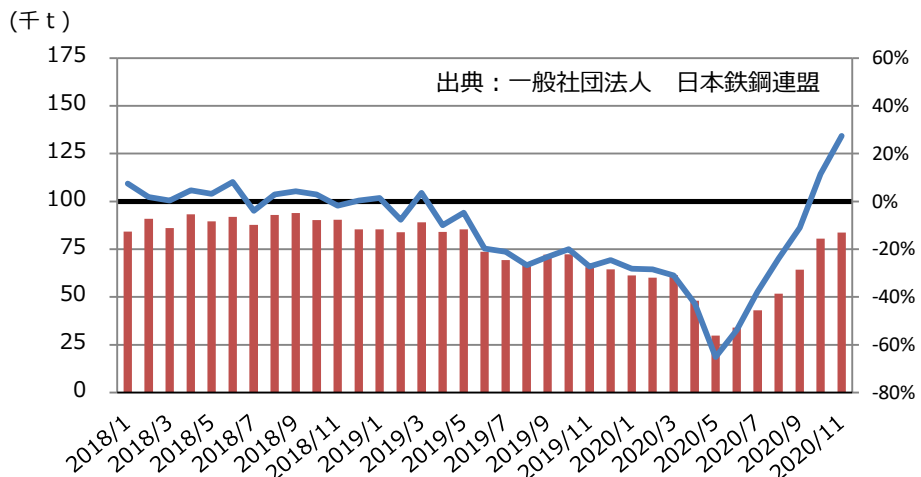
工作機械：2018年秋頃より米中貿易摩擦影響で下落。新型コロナウイルス影響で2020/5に前年同月比-53%まで下落。足元では同+8.7%に回復。
 半導体製造装置：2019年秋頃から5Gやデータセンター関連の投資が堅調。2020年7月以降、米中貿易摩擦の影響で日本では前年同月比減少傾向。
 2020/12は前年同月比で-0.3%。
 建設機械：消費税増税の需要反動等で2019年10～11月生産落込み。2020/2以降は新型コロナウイルス影響で前年同期比でマイナス推移していたが、足元は中国や欧米での需要回復で前年同月比は大幅上昇し、2020/11は+100.4%。

特殊鋼需要動向

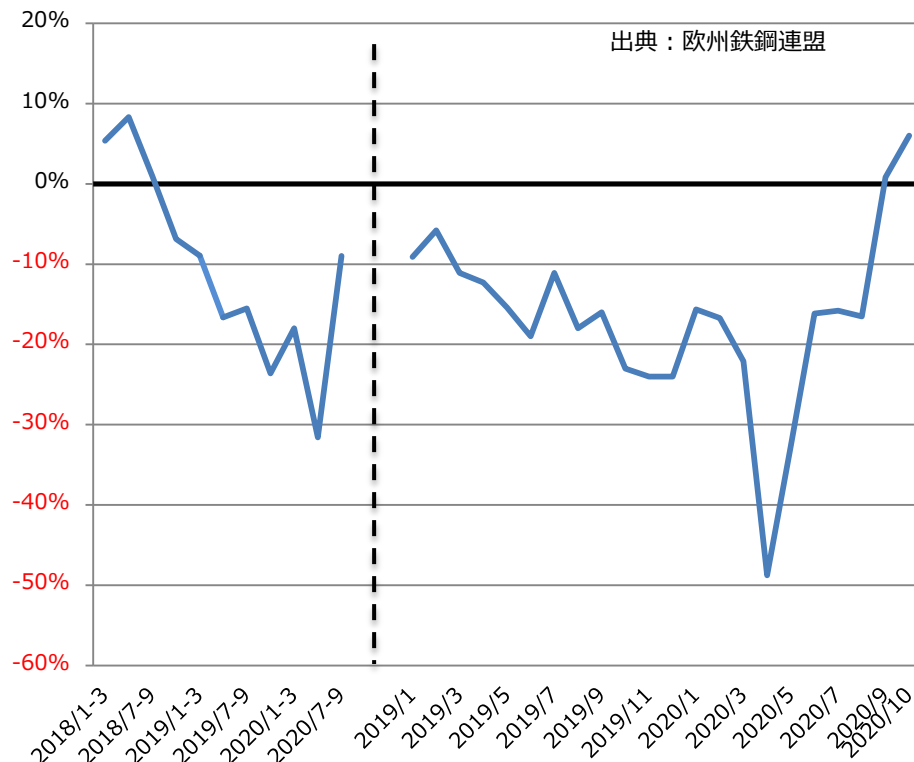
日本特殊鋼受注数量（特殊鋼）（前年同月比増減率）



日本特殊鋼受注数量（軸受鋼）（前年同月比増減率）



欧州デリバリー数量 棒鋼 & 平鋼/構造用合金鋼（前年同期比増減率）

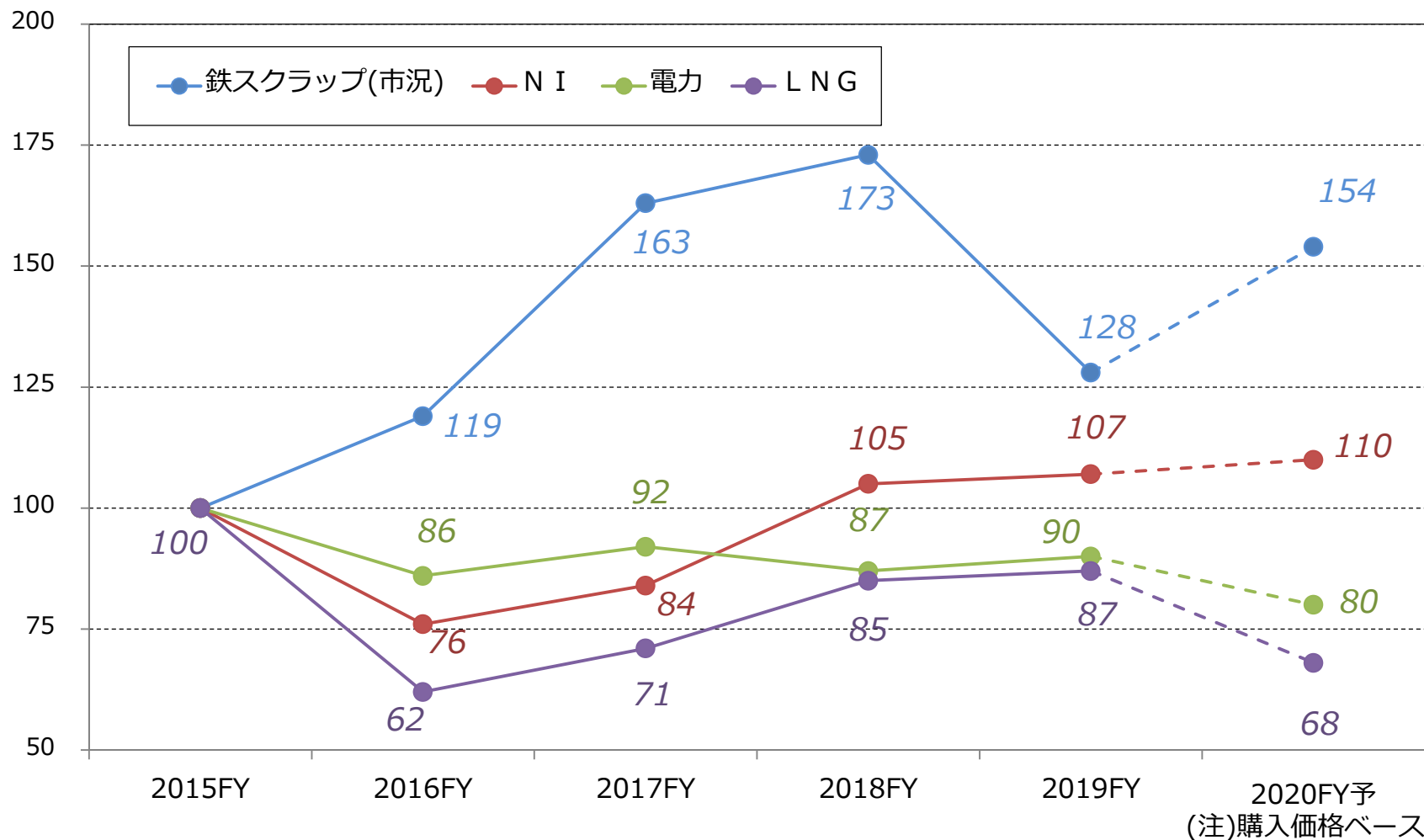


2018年10月以降、前年同期比でマイナス推移。2020年4月は前年同期比で-49%と大きく下落した（自動車向け等需要低迷およびサプライチェーンによる在庫調整影響および新型コロナウイルス影響）が、4月に底打ちし、マイナス幅が縮小、10月は前年同期比で+6.0%

軸受鋼は、2019年夏頃から受注が急減し、その後もマイナス幅が拡大、さらに新型コロナウイルス影響で大幅下落。5月は前年同月比で-65%となった(新型コロナウイルス影響により世界各国での自動車・建機・産機向け需要低迷と大幅な在庫調整)。2020年6月以降は中国や欧米で需要が持ち直し、マイナス幅が縮小。2020年11月は前年同月比で+27.4%まで回復。

原燃料価格の推移

(2015FY を100とした指数表示)



損益の概要(詳細) (2020年4月1日～2020年12月31日) (単位：億円)

	2020FY/4-12 月期(A)	2019FY/4-12 月期(B)	(A)-(B) (増減)	増減率 (%)
売上数量(千t)	967	1,283	-316	-24.7
内、当社単体	478	682	-204	-29.9
内、Ovako(注1)	427	526	-99	-18.9
内、MSSS(注1)	62	75	-13	-17.9
売上高	1,487	2,037	-550	-27.0
内、当社単体	711	1,067	-356	-33.3
内、Ovako	654	812	-157	-19.4
内、MSSS	70	102	-32	-31.3
営業利益	▲65	15	-80	-
内、当社単体	▲8	41	-50	-
内、Ovako	▲21	4	-26	-
内、MSSS	▲9	▲6	-2	-
内、のれん償却費	▲19	▲21	+2	-
経常利益	▲67	11	-78	-
内、当社単体	▲5	44	-50	-
内、Ovako	▲24	▲0	-24	-
内、MSSS	▲11	▲10	-1	-
内、のれん償却費	▲19	▲21	+2	-
税後利益(注2)	▲59	0	-59	-
のれん償却前営業利益	▲46	37	-82	-
のれん償却前経常利益	▲48	32	-80	-
のれん償却前税後利益	▲39	22	-61	-

(注1)
OvakoおよびMSSSは、
2020年1～9月期を連結

(注2)
親会社株主に帰属する四半期
純利益

(ご注意)

本資料の業績予想等は、本資料の発表日現在において、入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績等は、今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。いかなる確約や保証を行うものではありません。